YAMAHA



F5A
F6C

船外機取扱説明書

⚠ 船外機をご使用になる前に取扱説明書をよくお読みになりお使いください。

6ED-28199-00

船外機をご使用になる前に取扱説明書をよくお読みになりお使いください。航海する時は、本書を防水バッグなどに入れて、お客様のボートの適切な場所に保管してください。船外機を売却される場合は、本書を添付してください。

JMU30127

お客様へ

ヤマハ船外機をお買い上げ戴きまことにありがとうございます。
この取扱説明書は、船外機の正しい取り扱い方法と簡単な点検、整備について説明してあります。
万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障等の原因となります。
船外機の取り扱いを十分ご存知の方も製品独自の装備や取り扱いがありますので、ご使用される前には本書を必ずお読みいただき、またご使用時には携帯し安全快適なマリンライフをお楽しみください。
本書では正しい取り扱い、および点検整備に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠ 安全に係わる注意情報を意味しています。

JWM00782

⚠警 告

取り扱いを誤った場合、死亡または重傷及び傷害に至る可能性がある場合を示しています。

JCM00702

注 意

取り扱いを誤った場合、船外機または他の物的損害に至る可能性がある場合を示しています。

要　点

正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

取扱説明書と保証書について

仕様の変更などにより、取扱説明書の図や内容と実機が一部異なる場合があります。ご了承ください。
取扱説明書は大切に保管し、船外機の転売や譲渡等をされる場合は必ず添付してください。
保証書はよくお読みいただき裏面の取扱店名、捺印をご確認のうえ、大切に保存してください。

製品を長くご愛顧頂く為に

この取扱い説明書に従った製品の正しい取扱いや、指定の定期点検／保守を行っていただくことを推奨致します。上記の注意事項に従わずに何らかの損害が発生した場合、保証の対象外になりますのでご注意ください。

製品を国外へ持ち出しのお客様へ

国によっては法令／規制の関係で持ち出す事が出来なかったり、登録出来なかったりする可能性があります。また、保証が一部地域で適用されない場合もございます。もしお客様が製品を国外へ持ち出して使う場合は、詳細を購入販売店に相談してください。

製品の個人転売を受けたお客様へ

お客様再登録のため最寄の販売店にご相談していただき、所定のサービスを受けられる様にしてください。

ご不明な点や不具合なところがありましたら、お早めにお買い上げのヤマハ取扱店にご相談、またはお申しつけください。
ヤマハ取扱店では、お客様の良きアドバイザーとしてご来店をお待ち申し上げております。

要　点

本書では内容や図は F5AMH, F6CMH を基本に標準的な装備品を想定して説明しております。モデルや仕様によっては適合しない項目もあります。

目次

安全にご使用するにあたって 1
安全にお使いいただくために 1
プロペラ 1
回転部品 1
高温部品 1
感電の危険性 1
エンジンシャットオフコード（ランヤード） 1
ガソリン 1
ガソリンの蒸発と流出の注意 2
一酸化炭素 2
改造 2
ボート運転安全性 2
飲酒と薬の服用について 2
ライフジャケット 2
遊泳者への注意 2
乗船者 2
過積載 2
衝突を回避する 3
水中の障害物および浮遊物への注意 3
天候 4
乗船者の訓練 4
ボート航行の安全に関する告知 4
法令および規制 4

お使いいただく前に 5
製造番号の記録 5
船外機製造番号 5
マニュアル類と製品安全ラベルをお読みください 6
警告ラベル 6

基本事項と仕様諸元 9
仕様諸元 9
ボートへの設置条件 10
ボートの定格馬力 10
船外機の取り付け 10
バッテリーに関する項目 10
プロペラ 10
始動安全装置 11
エンジンオイルに関する項目 11
ギヤオイル 12
燃料に関する項目 12
ガソリン 12
船底の清掃 12
船外機の廃棄に関する項目 13
非常時の装備 13

構成部品 14
各部の名称 14
燃料タンク（一体型燃料タンク） 15
燃料タンク（別体型燃料タンク） 15
燃料コック 15
ティラーハンドル 16
ギヤシフトレバー 16
スロットルコントロールグリップ 17
スロットルインジケーター 17
スロットルフリクションアジャスター 17
緊急エンジン停止スイッチ 18
エンジン停止ボタン 18
チョークノブ（プルタイプ） 18
燃料ホースコネクターキャップ 19
マニュアルスターターハンドル 19
ステアリングフリクションアジャスター 19
チルトピン 20
チルトロック機構 20
チルトサポートバー 20
カウルロックレバー 21
キャリングハンドル 21

船外機の取り付け 22
船外機の取り付け 22
ボートトランサムへの取り付け 22
船外機の取り付け 24

運転と操作 25
初めてお使いになる前に 25
エンジンオイルの補給 25
慣らし運転 25
ボートをよく知ろう 25
始動前点検 26
燃料残量 26
トップカウルの取り外し 26

目次

燃料系統 26
コントロールシステムの点検 26
エンジンシャットオフコード（ランヤード） 27
エンジンオイル 27
船外機本体 28
トップカウルの取り付け 28
燃料タンクへの給油 29
エンジン操作 31
燃料供給 31
エンジン始動 33
エンジン始動後の点検 35
冷却水 35
暖機運転 35
暖機運転方法 35
暖機運転後の点検 36
シフト操作 36
エンジン停止スイッチ 36
前進／後進 36
停船 37
エンジン停止 37
エンジン停止手順 37
船外機トリム角度 38
トリム角度の調整 39
トリム角度の設定とボートの取り扱い 39
チルトアップ／ダウン 40
チルトアップ 41
チルトダウン 42
浅瀬航走 43
浅瀬航走 43
他の航走状況 44

点検と整備 45
運搬と保管 45
船外機の取り外しと運搬 45
長期保管 48
保管手順 48
潤滑 50
船外機の洗浄 50
船外機外装の点検 51
定期点検 51
シビアコンディション 51
定期点検表１ 52
定期点検表２ 54
グリス給脂箇所 55
スパークプラグの点検 56
燃料フィルターの点検 57
アイドル回転数の点検 57
エンジンオイルの交換 57
ワイヤーリードと各接続部の点検 59
プロペラの点検 59
プロペラの取り外し 60
プロペラの取り付け 60
ギヤオイルの交換 61
アノードの点検（外部取り付け） ... 62
付属工具と部品 63

不具合時の対応 64
故障と対策 64
応急処置 66
衝撃を受けた場合 66
始動装置が作動しない場合 66
応急始動 67
船外機を水中に落とした場合 68

附録 69
メンテナンスに関する各種サポート情報 69
お客様窓口のご案内 70

索引 71

⚠ 安全にご使用するにあたって

JMU33623

安全にお使いいただくために

船外機特有の安全に係わる特性を、以下に記述します。危害を避けるために、指示された内容を守ってください。

JMU36502

プロペラ

プロペラに接触すると、負傷または死亡する恐れがあります。船外機のシフトが中立（ニュートラル）の時でもプロペラは回転を続ける可能性があります。またプロペラが止まっている状態でも、鋭利な縁で身体を切る恐れがあります。

- ボート付近に遊泳者がいるときは、直ちにエンジンを停止してください。
- エンジンが停止している時でも、プロペラの回転範囲内に近づかないようにしてください。

JMU40272

回転部品

手や足、髪、装飾品、衣服、ライフジャケットのストラップなどが、エンジン内部の回転部品に挟まれたり、あるいは巻き込まれて負傷したり死亡する危険があります。トップカウルは、可能な限り取り付けておいてください。エンジンを運転させたままトップカウルを外したり、交換したりしないでください。

トップカウルを外してエンジンを始動するときは、本書に示された手順に従ってください。トップカウルを外したときは、手や足、髪、装飾品、衣服、ライフジャケットのストラップなどを可動部品に近づけないでください。

JMU33641

高温部品

エンジン運転中および停止直後は、エンジンの各部品の表面は高温状態で、火傷の恐れがあります。エンジンが冷えるまでは、トップカウル内の各部品に手を触れないでください。

JMU33651

感電の危険性

運転中は、電装品には触らないでください。感電したり、感電死する恐れがあります。

JMU33672

エンジンシャットオフコード（ランヤード）

エンジンシャットオフコードは、操船者が誤ってボートから水中に落ちた場合や、運転席から離れた場合に、エンジンを停止できるよう衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付けてください。こうすることにより、ボートが無人で航行することを防止し、また遊泳者や障害物に衝突することを防止できます。

エンジン運転中は、エンジンシャットオフコードを常に衣服の安全な部分、腕、または足に付けてください。ボートの航行中は、運転席から離れるためにエンジンシャットオフコードを外さないでください。エンジンシャットオフコードが正しく機能するように、エンジンシャットオフコードを衣服の外れやすい部分に付けたり、絡まないようにしてください。

エンジンシャットオフコードは誤って引っ張られないようにしてください。エンジン運転中にエンジンシャットオフコードを引くと、エンジンが急停止し操船出来なくなります。また、ボートの速度が急減速し、乗船者や物が船外に投げ出される恐れがあります。

JMU33811

ガソリン

ガソリンは引火性です。火災や爆発の危険を避けるために、給油は 31ページの手順に従ってください。

JMU33821

ガソリンの蒸発と流出の注意

ガソリンをこぼさないように、取り扱いには十分に注意して行なってください。万一ガソリンがこぼれた場合は、乾いた布ですぐに拭き取ってください。ガソリンを拭いた布は、正しい方法で廃棄してください。
ガソリンがこぼれて皮膚についた場合は、ただちに石けんと水で洗い流してください。
ガソリンが衣服に付着した場合は、着替え等を行ってください。
誤ってガソリンを飲み込んだ場合、気化したガソリンを大量に吸い込んだ場合、またはガソリンが目に入った場合は、ただちに医師の診断を受けてください。決して、ホースの端を口にくわえてガソリンを吸い上げたりしないでください。

JMU33901

一酸化炭素

排気ガスは一酸化炭素を含み中毒をおこす恐れがあります。ボートハウスなどの閉め切った場所ではエンジンを始動させないでください。

JMU33781

改造

船外機は改造しないでください。船外機を改造すると安全性や信頼性が低下し、危険なだけでなく法律違反となります。

JMU33742

ボート運転安全性

この項では、航行時に守らなければならない安全上の大切な注意事項が示されています。

JMU33711

飲酒と薬の服用について

飲酒または薬を服用した後は、ボートを操船しないでください。ボートの死亡事故のもっとも一般的な原因の一つが、酔った状態での操船によるものです。

JMU40281

ライフジャケット

認定されたライフジャケットを定員分、ボートに備えてください。乗船者はボートの用途に合った日本小型船舶検査機構（JCI）認定の救命胴衣（ライフジャケット）を必ず着用してください。

JMU33732

遊泳者への注意

航行中は、スキーヤー、ダイバーなどの遊泳者に注意してください。ボート付近に遊泳者がいる時は、シフトを中立（ニュートラル）にして、エンジンを停止してください。
遊泳者は見えにくいので海水浴場には近づかないでください。
プロペラはシフトが中立（ニュートラル）の位置でも回転します。付近に遊泳者がいる時は、エンジンを停止してください。

JMU33752

乗船者

ボート上の正しい乗船席をボートメーカーに確認し、アイドル回転数以上の速さで運転する場合は、乗員が正しい位置に座っている事を確認してください。立っていたり指定された場所以外に座っていると、波や航跡で、またはスピードや進路が急に変った場合に、船の内外に投げ出される可能性があります。乗員が指定の安全な場所に座っている場合でも、通常では行わないような運転をする場合は乗員に警告してください。波や航跡をジャンプする事は常に避けてください。

JMU33763

過積載

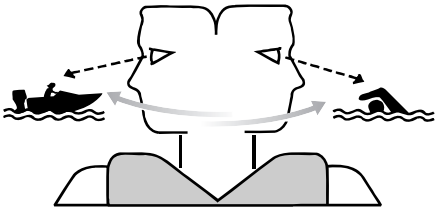
船体の最大積載量が超過しないようにしてください。船体の最大積載量や定員に関しては、船体に取付けられた銘板を参照するか、船体製造メーカーにご照会ください。

船体製造メーカーの指示内容に従い、重量を正しく分散するようにしてください。過積載または重量の偏りがあると、ボートの操船が難しくなり、事故、転覆、浸水の原因になります。

JMU33773

衝突を回避する

遊泳者、障害物、そして他のボートに常に注意を払ってください。視界が制限されたり妨げられる状況に警戒してください。



ZMU06025

遊泳者、障害物、他のボートから十分に安全な距離を保ち、回避できる安全な速度や距離を保って航行してください。

- 他のボートや水上スキーをしている人の背後を追走しないでください。
- 急旋回等、周囲の操船者が予想困難な航行は行わないでください。
- 水中物体のある水域や浅水域の航行は避けてください。
- 制御不能、衝突や、海に投げ出されたりするリスクを小さくするため、ご自身の能力の範囲内で運転し、無謀な操縦は避けてください。
- 衝突を避けるために、早めの対処をしてください。ボートにはブレーキがなく、またエンジンを停止したりスロットルを戻したりすると、操舵力が低下することを忘れないでください。障害物に衝突する前に停止するかどうか確信が持てない場合は、スロットルを入れて別方向に進んでください。

JMU48100

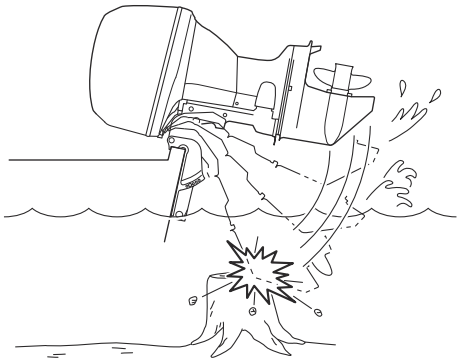
水中の障害物および浮遊物への注意

航走中に浮遊物や、水中の障害物に接触した場合、次の状況が想定されます。

- 急減速により、同乗者や荷物が前方に投げ出される恐れがあります。
- 衝撃により船外機の部品が外れ、船内に飛んでくる恐れがあります。
- 衝撃により、ボートまたは船外機が損傷する恐れがあります。

浮遊物や水中に障害物が存在する可能性がある場所でボートを操船するときは、船外機のトリム角度を調整し、速度を下げて慎重に航行してください。詳細は、43ページを参照ください。

もし浮遊物や水中の障害物に接触した場合は、船体および船外機に異常が無いことを確認します。異常があった場合は低速で最寄の港へ引き返してください。帰港後はヤマハ販売店の点検を受けてください。



JMU33791

天候

常に最新の天候を知るようにしてください。出航する前に天気予報を確認してください。荒天時には決して出航しないでください。

JMU33881

乗船者の訓練

少なくとも 1 人の乗船者が、緊急時にボートを操舵する訓練を受けていることを確認してください。

JMU33891

ボート航行の安全に関する告知

ボート航行の安全に関する情報を常に入手してください。詳しい発表内容や情報は、ボート航行の安全のための多くの組織から入手できます。

JMU33602

法令および規制

ボートで航行する場合は、航行するに関する法律および規則を理解し、それに従ってください。地域によっては一部の規則が優先されますが、基本的にはすべて International Rules of the Road(国際海上航行規則)と同じです。

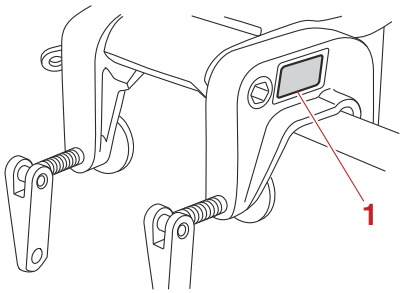
JMU25172

製造番号の記録

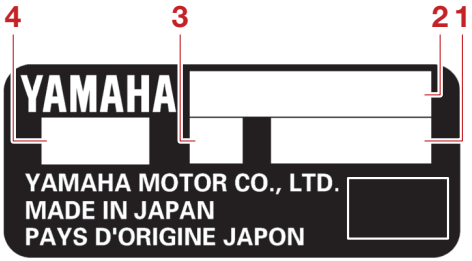
JMU25186

船外機製造番号

製造番号は、クランプブラケットの左舷側に貼ってあります。
ヤマハ取扱店への部品注文の際や盗難にあったときのために、空欄に番号を控えておくと便利です。



1. 船外機製造番号貼付場所



1. 製造番号
2. モデル名
3. トランサム高さ
4. エンジン型式

JMU33524

マニュアル類と製品安全ラベルをお読みください

船外機をご使用または整備を始める前に:

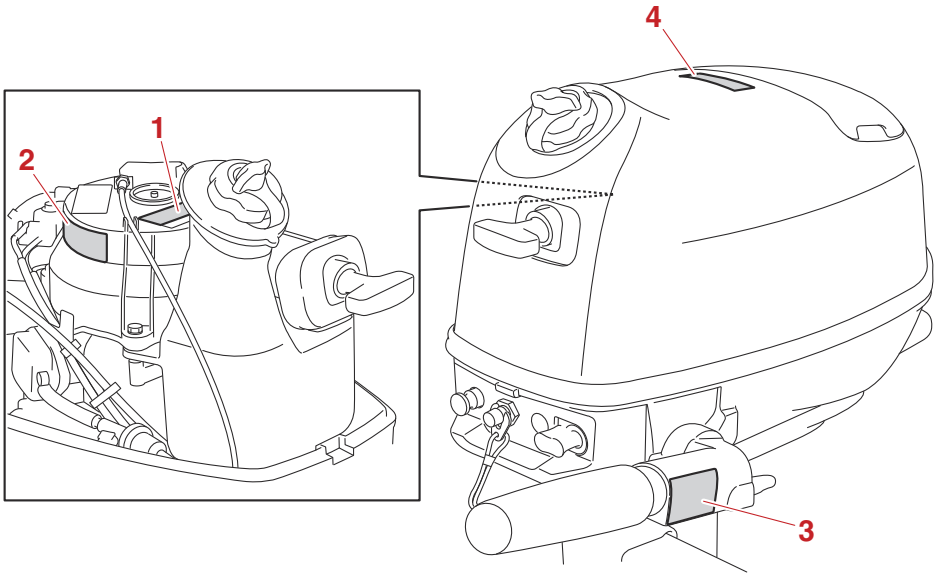
- 本書をお読みください。
- お客様のボートに備えられているマニュアル類はすべてをお読みください。
- 船外機とボートのすべてのラベルをお読みください。

ご不明な点があれば、ヤマハ販売店にご相談ください。

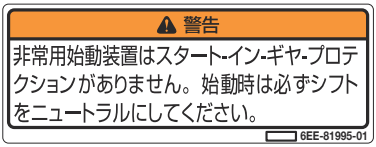
JMU33836

警告ラベル

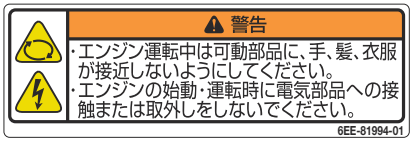
警告ラベルが損傷または紛失している場合は、ヤマハ取扱店で交換してください。



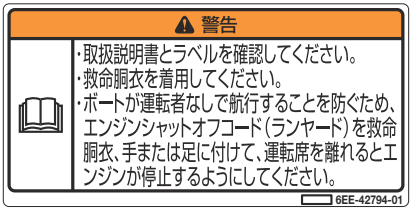
1



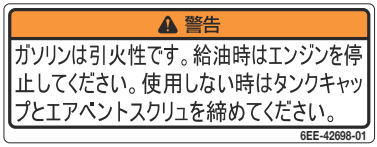
2



3



4



JMU35282

ラベルについて

上記のラベルに記載されている内容は、以下のようになります。

1

JWM01692

⚠警 告

非常用始動装置はスタート-イン-ギヤ-プロテクションがありません。 始動時は必ずシフトをニュートラルにしてください。

2

JWM01682

⚠警 告

- **エンジン運転中は可動部品に、手、髪、衣服が接近しないようにしてください。**
- **エンジンの始動・運転時に電気部品への接触または取外しをしないでください。**

3

JWM01672

⚠警 告

- **取扱説明書とラベルを確認してください。**
- **救命胴衣を着用してください。**
- **ボートが運転者なしで航行することを防ぐため、エンジンシャットオフコード（ランヤード）を救命胴衣、手または足に付けて、運転席を離れるとエンジンが停止するようにしてください。**

4

JWM01702

⚠警 告

ガソリンは引火性です。給油時はエンジンを停止してください。使用しない時はタンクキャップとエアベントスクリュを締めてください。

JMU35134

シンボル

以下のシンボルは次のような意味を示します。

注意／警告



ZMU05696

マニュアル熟読



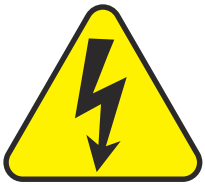
ZMU05664

回転物注意



ZMU05665

感電注意



ZMU05666

JMU38092

仕様諸元

要　点

下記の仕様諸元内の“(アルミ)”は、アルミプロペラ装着時の数値を示します。

JMU3061J

寸法、重量:

全長:
750 mm
全幅:
403 mm
全高　S:
1039 mm
全高　L:
1166 mm
船外機トランサム高さ　S:
435 mm
船外機トランサム高さ　L:
562 mm
乾燥重量　(アルミ)　S:
27 kg
乾燥重量　(アルミ)　L:
28 kg

性能:

全開回転域:
4500–5500 r/min
定格出力:
3.7 kW (F5AMH)
4.4 kW (F6CMH)
アイドル回転数:
1450–1550 r/min

パワーユニット:

形式:
4ストローク　OHV　単気筒　2バルブ
総排気量:
139 cm³
ボア×ストローク:
62.0 × 46.0 mm
点火方式:
CDI
スパークプラグ　(NGK):
CR6HSB
ギャップ:
0.6–0.7 mm
操舵方式:
ティラハンドル
始動方式:
マニュアルスタータ
始動系:
チョークバルブ
クリアランス（吸気）(冷機時):
0.08–0.12 mm
クリアランス（排気）(冷機時):
0.08–0.12 mm

ロワーユニット:

ギアシフト位置:
F-N-R
減速比（ギア比）:
2.08 (27/13)
トリム/チルト方式:
マニュアルチルト
プロペラマーク:
BA

燃料、オイル要件:

推奨燃料:
無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量（一体型燃料タンク）:
1.1 L
推奨エンジンオイル:
ヤマルーブ　4ストローク　マリンエンジンオイル
推奨エンジンオイルグレード1:
SAE 10W-30/10W-40/5W-30
API SE/SF/SG/SH/SJ/SL
エンジンオイル容量:
0.6 L
潤滑方式:
ウェットサンプ

推奨ギヤオイル:
　船外機ギヤオイル
推奨ギヤオイルグレード:
　SAE 90 API GL-4
ギヤオイル容量:
　0.100 L

JMU33556

ボートへの設置条件

JMU33566

ボートの定格馬力

JWM01561

⚠警 告

船体の最大搭載馬力を越える船外機を取り付けて航行すると、ボートが極度の不安定になる可能性があります。

単機または複数の船外機を取付ける前に、船外機の合計馬力が船体の最大搭載馬力を越えていないか確認してください。ボートの銘板を参照するか、船体の製造業者に照会してください。

JMU40171

船外機の取り付け

JWM02431

⚠警 告

船外機が正しく取り付けられていない場合、操船がしにくくなったり制御不能や火災など危険な状況を引き起こす恐れがあります。船外機を正しく取り付けできない場合は、ヤマハ取扱店にご相談ください。

船外機を取り付ける場合は、船外機を２人で持って作業してください。船外機の取り付けに関する詳細は、22ページを参照してください。

JMU40052

バッテリーに関する項目

バッテリーを取り付ける場合は、ライティングコイルキットを取り付ける必要があります。バッテリーとライティングコイルの取り付けについては、ヤマハ販売店にご相談ください。

JMU34196

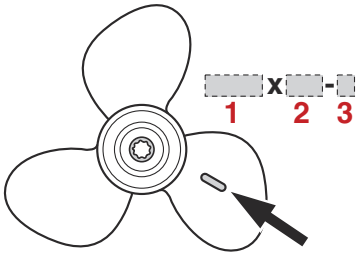
プロペラ

ボートのオーナーにとって、プロペラの選択は船外機の次に重要な選択です。プロペラのタイプ、サイズ、そしてデザインは加速力、燃費、そしてエンジンの寿命にも直接影響してきます。ヤマハは各ヤマハ船外機に応じたプロペラを設計、製造しています。

お買い求めになった船外機には、多様な条件下を想定して最適と思われるプロペラを搭載していますが、用途により、他のプロペラの方が適している場合もあります。

ヤマハのディーラーは、お客様の必要に合わせたプロペラを選ぶお手伝いをします。最大積載量時にフルスロットルでエンジンの回転範囲の半分より上になるようなプロペラを選んでください。一般的に小さな負荷運転に対してはピッチの大きなプロペラ、負荷が大きければピッチの小さなプロペラを選びます。ボートの負荷に大きな変動がある場合は、最大負荷に合わせてプロペラを選びますが、負荷が小さいときにはエンジンスピード範囲内になるようにスロットルの設定を下げる必要があるかもしれません。

プロペラの点検に関しては、59ページを参照してください。



1. プロペラ直径（インチ）
2. プロペラピッチ（インチ）
3. プロペラの種類（プロペラマーク）

JMU39192

始動安全装置

ヤマハ船外機には、ギヤが前進または後進に入っているときはエンジンの始動ができないように、安全装置が装備されています。エンジンを始動する際は、シフトを必ず中立（ニュートラル）にしてから行ってください。

JMU39693

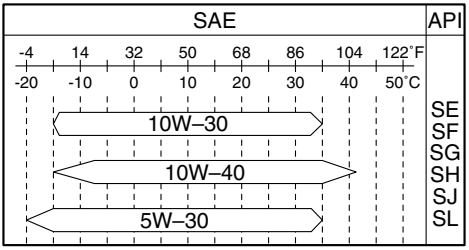
エンジンオイルに関する項目

船外機を使用している地域の温度環境に合ったエンジンオイルを選んでください。

推奨エンジンオイル:
ヤマルーブ　4ストローク　マリンエンジンオイル
推奨エンジンオイルグレード1:
SAE 10W-30/10W-40/5W-30
API SE/SF/SG/SH/SJ/SL
推奨エンジンオイルグレード2:
SAE 15W-40/20W-40/20W-50
API SH/SJ/SL
エンジンオイル容量:
0.6 L

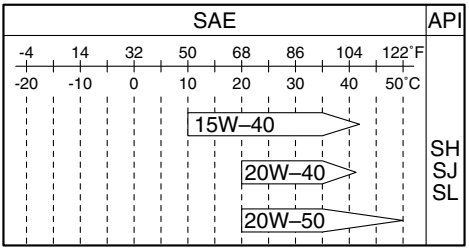
推奨エンジンオイルグレード1に記載されているエンジンオイルを入手できない場合、推奨エンジンオイルグレード2に記載されているエンジンオイルを使用してください。

推奨エンジンオイルグレード1



ZMU06854

推奨エンジンオイルグレード2



ZMU06855

ヤマハ純正エンジンオイルについて

ヤマハ純正エンジンオイルはヤマハ船外機、マリンジェット4ストロークエンジン用に開発されたエンジンオイルです。

ヤマハ純正エンジンオイル；
ヤマルーブ4ストロークマリンエンジンオイル　10W-30　SL

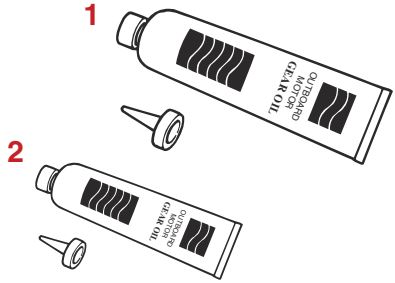


1. 20L
2. 4L
3. 1L

JMU30103

ギヤオイル

推奨ギヤオイル:
船外機ギヤオイル
推奨ギヤオイルグレード:
SAE 90 API GL-4
ギヤオイル容量:
0.100 L



1. 800ml
2. 350ml

JMU36361

燃料に関する項目

JMU40183

ガソリン

JCM01982

注 意

- **有鉛ガソリンを使用しないでください。有鉛ガソリンはエンジンに損傷を与える恐れがあります。**
- **燃料タンク内に水や不純物が入らないようにしてください。汚れた燃料は性能低下やエンジンの損傷を招く恐れがあります。必ず清潔なタンクで保管した、新しくきれいな燃料を使用してください。**

推奨燃料:
無鉛レギュラーガソリン

JMU36331

船底の清掃

船底の状態によってボートの性能は大きく変わります。船底は、海藻や貝類が付着しないように常にきれいに保っておくことが必要です。必要であれば、船底専用塗料を塗っておくと海藻や貝類が付着しにくくなります。塗料については、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。

JMU40302

船外機の廃棄に関する項目

船外機を不法投棄しないでください。廃棄についてはヤマハ販売店にご相談ください。

JMU36353

非常時の装備

エンジン故障に備えて以下の物を船内に常備してください。

- 各種スクリュードライバー、プライヤー、レンチ（メートルサイズ分を含む）および絶縁テープ
- 防水フラッシュライトと予備電池
- クリップ付き予備エンジンシャットオフコード
- スパークプラグのスペアセットなどの交換部品

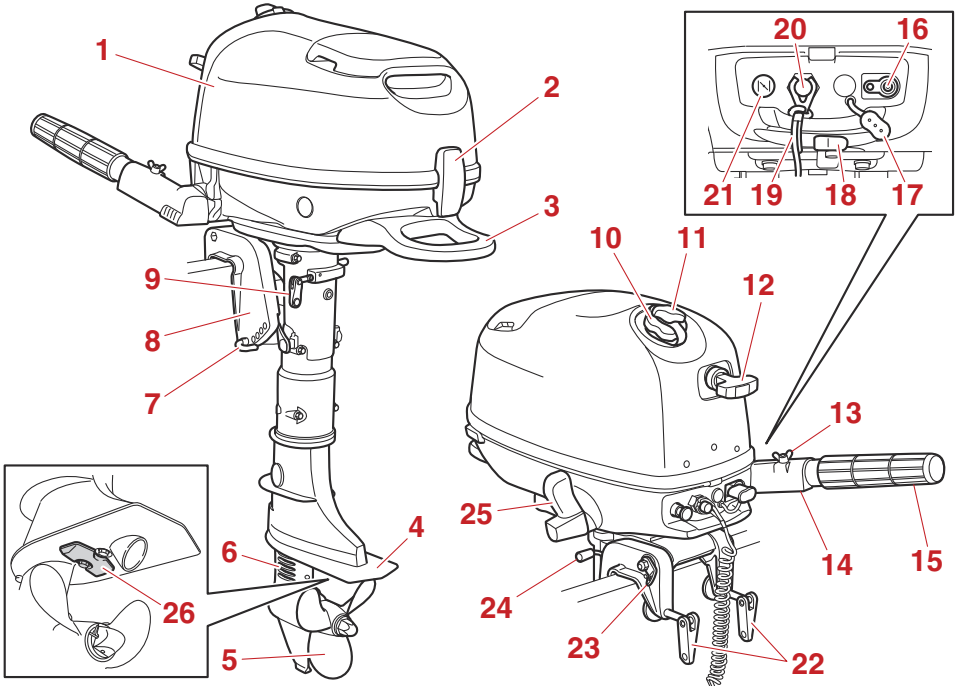
詳しくは、ヤマハ取扱店にご相談ください。

JMU46722

各部の名称

要　点

燃料タンク、リモコン関連、メーター類、およびプロペラ等の備品はオプションとなっている場合があります。詳しくは、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。
(*)仕様により異なります。



1. トップカウル
2. カウルロックレバー
3. キャリングハンドル
4. キャビテーションプレート
5. プロペラ
6. 冷却水取入口
7. チルトピン
8. クランプブラケット
9. ステアリングフリクションアジャスター
10. 燃料タンクキャップ
11. エアベントスクリュ
12. マニュアルスターターハンドル
13. スロットルフリクションアジャスター
14. ティラーハンドル
15. スロットルコントロールグリップ
16. 燃料ホースコネクター
17. 燃料ホースコネクターキャップ
18. 燃料コック
19. エンジンシャットオフコード
20. エンジン停止ボタン／緊急エンジン停止スイッチ
21. チョークノブ
22. クランプスクリュー
23. 係船ロープアタッチメント
24. チルトサポートバー
25. ギヤシフトレバー

26.アノード

JMU39545

燃料タンク（一体型燃料タンク）

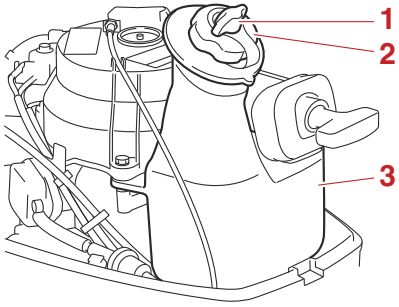
船外機には、一体型燃料タンクが装備されています。一体型燃料タンクには以下の部品があります。

燃料タンクキャップ

燃料タンクキャップを取り外すには、反時計方向に回します。燃料タンクキャップを取り付けるには、時計方向に回します。

エアベントスクリュ

エアベントスクリュは燃料タンクキャップに付いています。反時計方向に回すと緩みます。



1. エアベントスクリュ
2. 燃料タンクキャップ
3. 一体型燃料タンク

JMU39357

燃料タンク（別体型燃料タンク）

このモデルはオプションで別体型燃料タンクを装備することができます。別体型燃料タンクには以下の部品があります。

燃料タンクキャップ

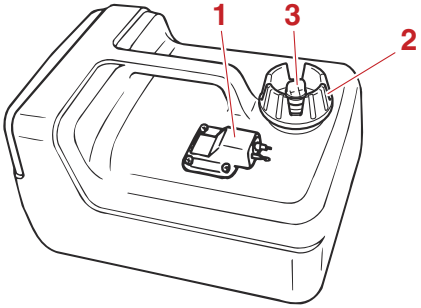
燃料タンクキャップを取り外すには、反時計方向に回します。燃料タンクキャップを取り付けるには、時計方向に回します。

エアベントスクリュ

エアベントスクリュは燃料タンクキャップに付いています。反時計方向に回すと緩みます。

燃料ホースコネクター

船外機に燃料を供給するために、燃料ホースを燃料ホースコネクターに接続します。



1. 燃料ホースコネクター
2. 燃料タンクキャップ
3. エアベントスクリュ

JWM00021

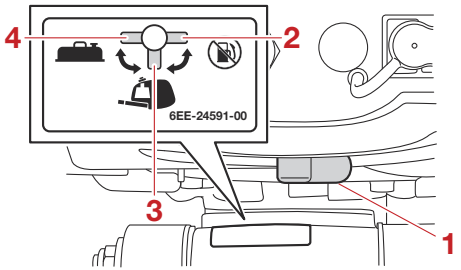
⚠警 告

- **保管または係留時には、燃料タンクを空にして船から下ろしておいてください。**
- **使用後はエアベントスクリュを閉じてください。**
- **燃料を入れたまま陸上運搬しないでください。**

JMU40091

燃料コック

燃料コックは、全閉位置、一体型燃料タンクの位置、別体型燃料タンクの位置の３方向に選択することができます。船外機に貼り付けられているラベルを確認して、使用に応じた位置にコックを合わせます。

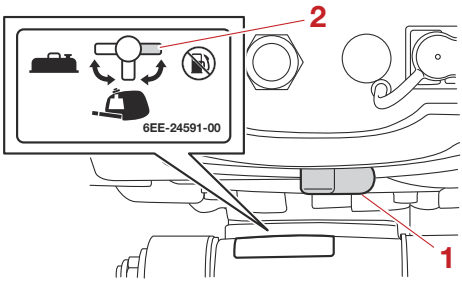


1. 燃料コック
2. 全閉位置
3. 一体型燃料タンクの位置
4. 別体型燃料タンクの位置

JMU39211

燃料コック“閉”

燃料コックを全閉位置に合わせると、燃料タンクからの燃料の供給が止まります。エンジン運転中以外は、常時燃料コックを全閉位置にしておきます。



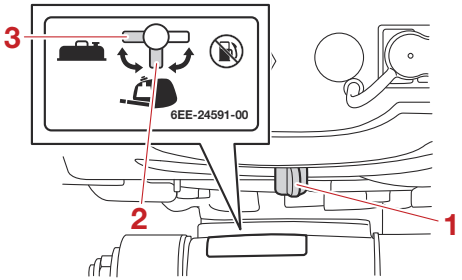
1. 燃料コック
2. 全閉位置

JMU39223

燃料コック“開”

燃料タンクからキャブレタへ燃料が供給されます。燃料コックの位置により、一体型燃料タンクまたは別体型燃料タンクのどちらか一方からの燃料供給が選べます。
一体型燃料タンクを使用する場合、燃料コックを一体型燃料タンクの位置に合わせます。

別体型燃料タンクを使用する場合、燃料コックを別体型燃料タンクの位置に合わせます。

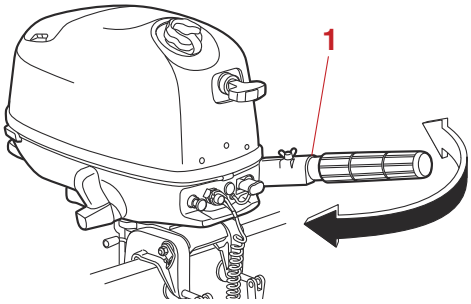


1. 燃料コック
2. 一体型燃料タンクの位置
3. 別体型燃料タンクの位置

JMU25914

ティラーハンドル

舵取り操作は、ティラーハンドルを左右に動かして行います。

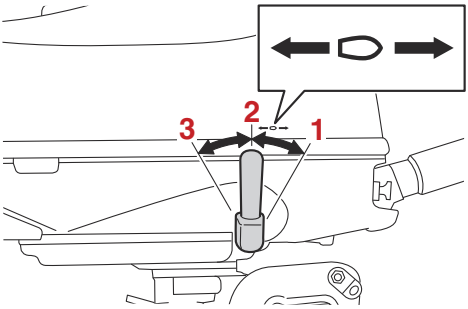


1. ティラーハンドル

JMU25925

ギヤシフトレバー

ギヤシフトレバーを前方（船首側）へ倒すと前進のギヤが入り、後方（船尾側）へ倒すと後進のギヤが入ります。

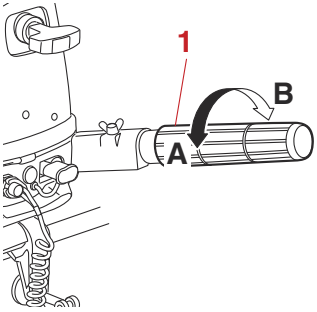


1. 前進の位置
2. 中立（ニュートラル）の位置
3. 後進の位置

JMU39701

スロットルコントロールグリップ

スロットルコントロールグリップはティラーハンドルに装備されています。“A”に回せば加速し、“B”に回せば減速します。

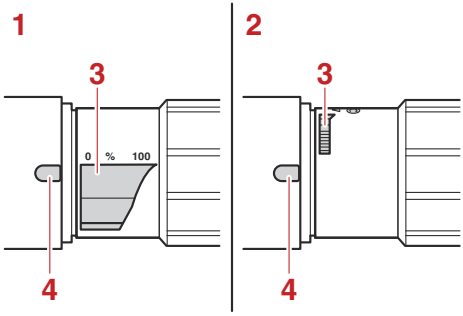


1. スロットルコントロールグリップ

JMU39713

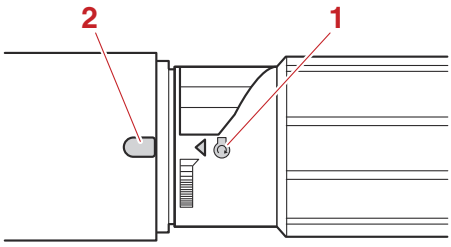
スロットルインジケーター

スロットルインジケーターは、スロットルの開度を示します。スロットルインジケーターが 100%のときは全開を示します。スロットルインジケーターが 0%のときは全閉を示します。



1. 全開
2. 全閉
3. スロットルインジケーター
4. 合わせマーク

スタートマーク“⏻”は、エンジン始動時のスロットル位置を示します。



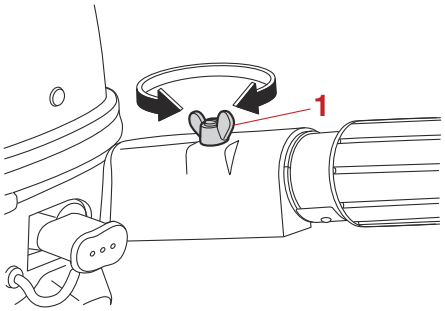
1. スタートマーク“⏻”
2. 合わせマーク

JMU39244

スロットルフリクションアジャスター

スロットルフリクションアジャスターは、操船者の好みに合わせて、スロットルコントロールグリップの動きの重さ（抵抗）を調整することができます。
重さ（抵抗）を増やすには、スロットルフリクションアジャスターを時計方向に回します。
重さ（抵抗）を減らすには、スロットルフリクションアジャスターを反時計方向に回します。一定のスピードを保ちたい場合は、

スロットルフリクションアジャスターを締めてスロットルコントロールグリップの設定を固定します。**警告！ スロットルフリクションアジャスターを、締めすぎないでください。スロットル操作の抵抗が大きすぎると、操船に支障をきたし事故につながる恐れがあります。** [JWM02262]

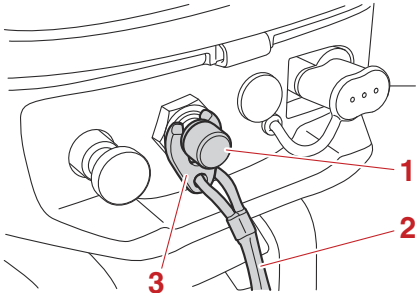


1. スロットルフリクションアジャスター

JMU25996

緊急エンジン停止スイッチ

航走中に操船者が落水等で操船不能に陥ったとき、エンジンシャットオフコードが伸びてロックプレートが外れ、エンジンを急停止させ船の暴走を防ぐ仕組みになっています。エンジンシャットオフコードは確実に操船者の衣服または手、足に取り付けてください。**警告！ 操船中はエンジンシャットオフコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付けてください。衣服の緩みそうな場所にはエンジンシャットオフコードを付けないでください。また、操船に支障をきたすような場所への取り付けは行なわないでください。航走中はエンジンシャットオフコードが身体や周辺の機器等に引っ掛かり不意にロックプレートが外れないようにしてください。操船に支障をきたすばかりでなく、ロックプレートが外れることにより急減速され同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。** [JWM00123]

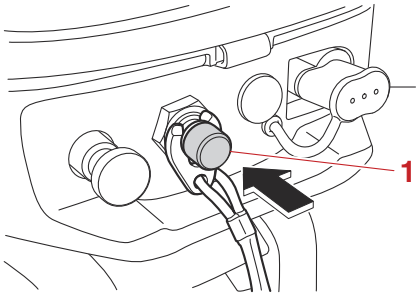


1. 緊急エンジン停止スイッチ
2. エンジンシャットオフコード
3. ロックプレート

JMU26004

エンジン停止ボタン

エンジン停止ボタンを押すと、エンジンが停止します。

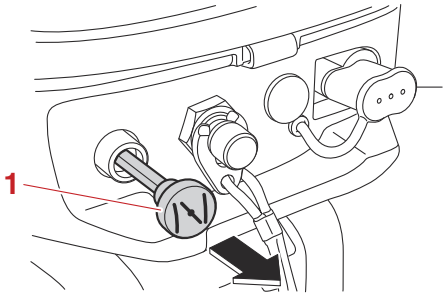


1. エンジン停止ボタン

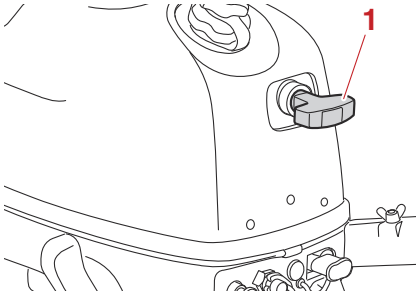
JMU26015

チョークノブ（プルタイプ）

チョークノブを引くことにより、冷えているエンジンの始動に必要な濃い混合気が供給されます。



1. チョークノブ



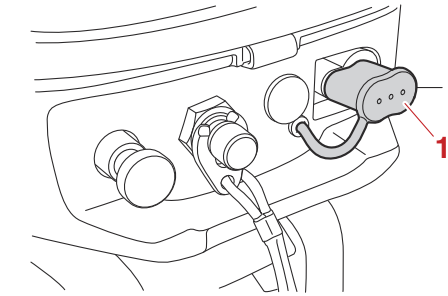
1. マニュアルスターターハンドル

JMU39724

燃料ホースコネクターキャップ

燃料ホースコネクターには燃料ホースコネクターキャップが付いています。**警告！ 別体型燃料タンクを使用しない時は、燃料ホースコネクターキャップを取り付けてください。誤って燃料ホースコネクターに当たった場合、けがをする恐れがあります。**

[JWM02412]



1. 燃料ホースコネクターキャップ

JMU26075

マニュアルスターターハンドル

マニュアルスターターハンドルは、エンジンをクランキングさせ始動するときに使います。

JMU39253

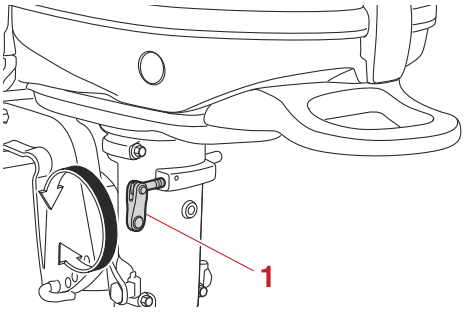
ステアリングフリクションアジャスター

JWM02271

⚠警 告

ステアリングフリクションアジャスターを締めすぎないようにしてください。ステアリング操作の抵抗が大きすぎると、操船に支障をきたし事故につながる恐れがあります。

ステアリングフリクションアジャスターは、操船者の好みに合わせて、ステアリングの動きの重さ（抵抗）を調整することができます。ステアリングフリクションアジャスターは、船外機の左舷側についています。



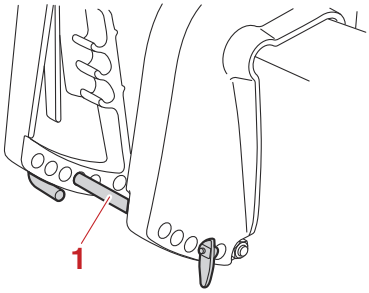
1. ステアリングフリクションアジャスター

重さ（抵抗）を増やすには、ステアリングフリクションアジャスターを時計方向に回します。
重さ（抵抗）を減らすには、ステアリングフリクションアジャスターを反時計方向に回します。

JMU40102

チルトピン

チルトピンは、ボートトランサムの角度に合わせて、船外機の角度を調整するときに使います。

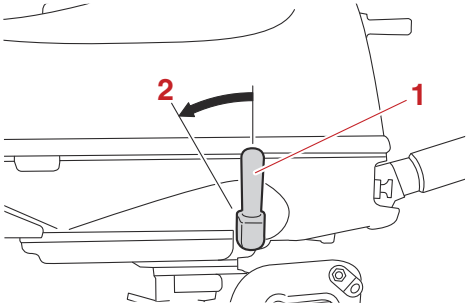


1. チルトピン

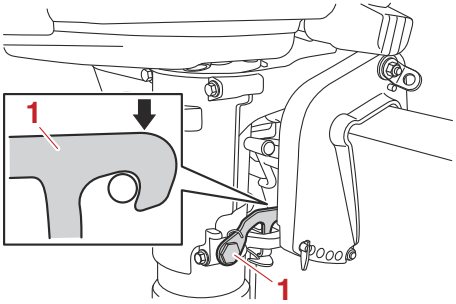
JMU39364

チルトロック機構

チルトロック機構は、後進時に船外機が水面に跳ね上がるのを防止するためのものです。
ギヤシフトレバーを後進の位置にすると、チルトロック機構が作動します。



1. ギヤシフトレバー
2. 後進の位置



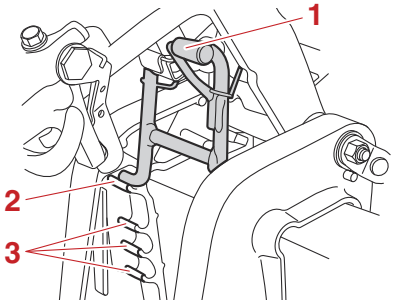
1. チルトロック

ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）の位置、または前進の位置にすると船外機をチルトアップすることができます。

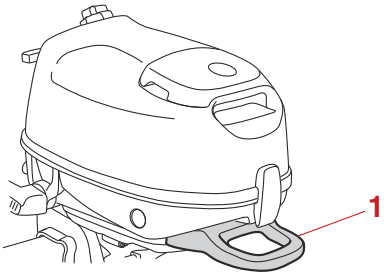
JMU39833

チルトサポートバー

チルトサポートバーは、チルトアップ状態もしくは浅瀬航走状態で船外機を保持するときに使います。



1. チルトサポートバー
2. チルトアップ位置
3. 浅瀬航走位置

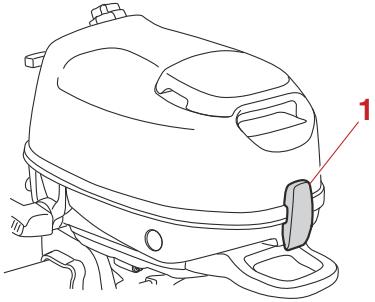


1. キャリングハンドル

JMU39264

カウルロックレバー

カウルロックレバーは、トップカウルを固定するためのレバーです。



1. カウルロックレバー

JMU39373

キャリングハンドル

キャリングハンドルは船外機を持ち運ぶ時に使用します。船外機の運搬方法は45ページを参照してください。

JMU39732

船外機の取り付け

船外機と船体の組み合わせは多種多様なため、それぞれの仕様によって取り付け方法は必ずしも同一ではありません。この章では、標準的な船外機の取り付け方法を説明しています。

JWM02342

⚠警 告

- **船体の最大搭載馬力を越える船外機を搭載すると、ボートの安定性を大きく損ないます。ボートの最大搭載馬力より大きい船外機を取り付けないでください。ボートの最大搭載馬力が不明な場合は、ボートメーカーにお問い合わせください。**
- **船外機が正しく取り付けられていない場合、操船がしにくくなったり制御不能や火災など危険な状況を引き起こす恐れがあります。船外機を正しく取り付けできない場合は、ヤマハ取扱店にご相談ください。**

JMU39563

ボートトランサムへの取り付け

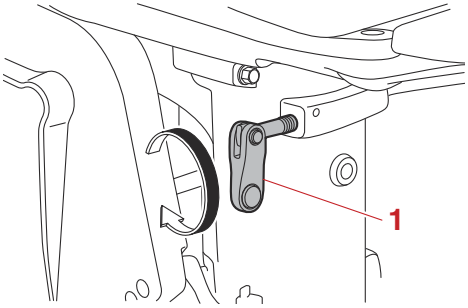
JWM02291

⚠警 告

船外機の取り付けや取り外しを行うときは、船外機が落下する恐れがあるため、トップカウルやティラーハンドルを持たないでください。

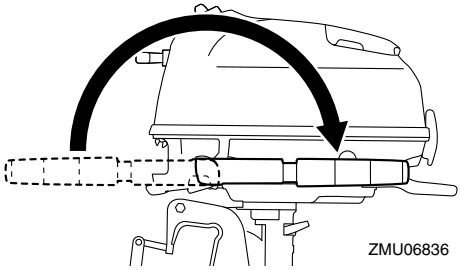
(1) 船外機の取り付け作業は必ず陸上で行ってください。船体が水上にある場合は、船体を陸上に引き揚げます。

(2) ステアリングが動くのを防ぐために、ステアリングフリクションアジャスターを時計方向に回します。

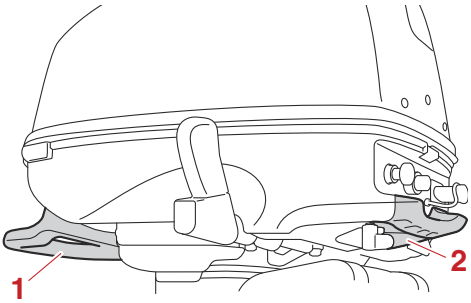


1. ステアリングフリクションアジャスター

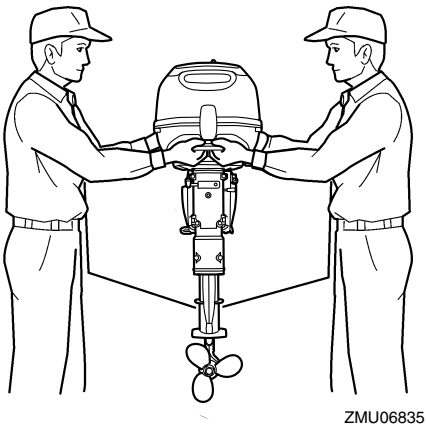
(3) ティラーハンドルを船首側から船尾側に 180°倒します。



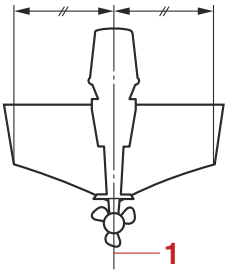
(4) キャリングハンドルとハンドグリップをつかみ、2人で持ち上げます。



1. キャリングハンドル
2. ハンドグリップ


ZMU06835

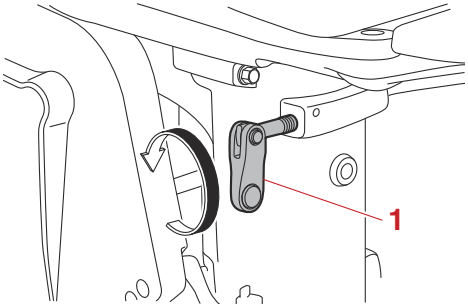
(5) 船外機はボートトランサムの中央（船体中心）に取り付けます。その時に操船に支障をきたさないよう、ボートの安定性が良いことを確かめます。ボートの仕様等により取り付けが困難な場合はヤマハ取扱店にご相談ください。



1. センターライン（キールライン）

(6) ステアリングフリクションアジャスターを反時計回りに回して緩め、ステアリングの動きを操船者の好みに合わせ調整します。**警告！ ステアリング操作の抵抗が大きすぎると操作に支障をきたし事故につながる恐れがあります。**

[JWM00722]

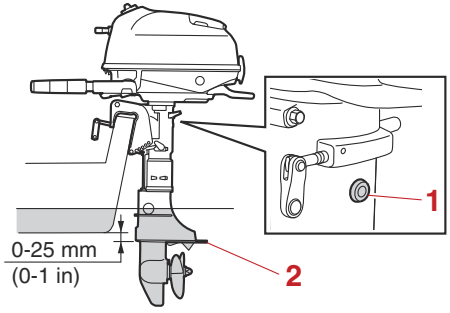


1. ステアリングフリクションアジャスター

JMU39742

取り付け高さ

効率のよい航走をするためには、船外機と船体の水の抵抗をできる限り減らす必要があります。船外機の取り付け高さは水の抵抗に大きく影響を与えます。取り付け高さが高すぎる場合は、航走中にキャビテーションをおこし推進力が低下します。同時にエンジン回転数が異常に高くなりオーバーヒート等の原因となる恐れがあります。取り付け高さが低すぎる場合は、水の抵抗が増え推進効率が低下します。一般的には船外機キャビテーションプレートの位置が、船底（キール）から 25mm 下方の間に収まるように取り付けます。



1. アイドルホール
2. キャビテーションプレート

JCM02171

注 意

- **ボートが最大積載状態で停止している時でも、船外機のアイドルホールが水面から十分に高く、エンジンに水が入らない位置であることを確認してください。**
- **エンジンの高さが不適当であるか、水流に対する障害（ボートの設計や状態）が存在すると、ボートが航行している間、水しぶきが発生することがあります。水しぶきがある状態でエンジンを連続運転すると、トップカウルのインテークグリルから船外機内に水が入り、エンジンに深刻な損傷を与える恐れがあります。水しぶきの原因を解消し航行してください。**

要 点

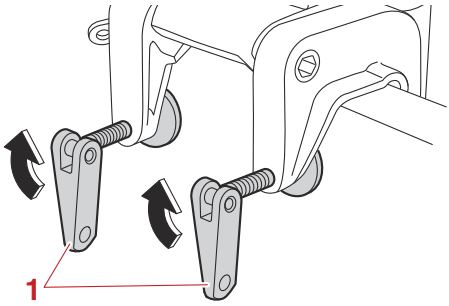
- 船外機と船体仕様の組み合わせによっては、取り付け高さは一律ではありません。試走して最良の取り付け高さを決めてください。
- トリム角度については 38ページを参照ください。

JMU39753

船外機の取り付け

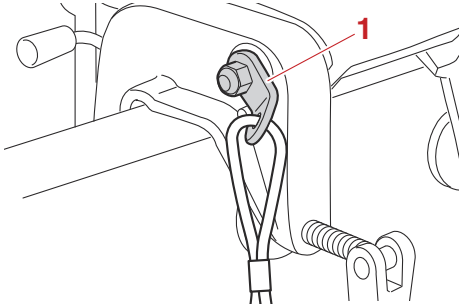
(1) 船外機をボートトランサムの中央に持っていきます。クランプスクリューを確実に締め込みます。運転中に振動でクランプスクリューが緩まないように時々、締まり具合を点検します。
警告！ クランプスクリューが緩むと、船外機がボートトランサム上を移動したり、脱落したりします。その結果、操船に支障をきたし事故の原因となる恐れがあります。クランプスクリューは、確実に締め付けてください。

[JWM00643]



1. クランプスクリュー

(2) 船外機が脱落したときのためにロープ等を準備し、一方の端をエンジン側の係船ロープアタッチメントに結び、他方を船体の丈夫な場所に結びます。そうすることにより何らかの原因で船外機がボートトランサムから脱落した場合、回収が可能です。



1. 係船ロープアタッチメント

JMU36382

初めてお使いになる前に

JMU36393

エンジンオイルの補給

船外機は、エンジンオイルを入れずに出荷されています。販売店がオイルを補充しなかった場合は、エンジン始動前にご自身でオイルを補充してください。***注意：*****重大なエンジンの損傷を防ぐために、最初にエンジンを始動する前にオイルが補充されているか点検してください。**[JCM01782]

出荷した船外機には次のようなタグが取り付けられています。購入後初めてエンジンオイルを補充した後、このタグを取り外してください。オイル量のチェックについては 27ページを参照してください。



JMU30175

慣らし運転

新しいエンジンは、摺動部品の表面のなじみを出すために、慣らし運転の期間が必要です。慣らし運転を正しく行なうことにより初期性能をいかんなく発揮し、エンジンの構成部品の寿命も延びます。***注意：*****慣らし運転を怠ると、構成部品の寿命が減るばかりでなくエンジンに損傷を与える恐れがあります。**[JCM00802]

JMU40061

慣らし運転の手順

新しい船外機は、摺動部品が均等になじむように、10 時間程度の「慣らし運転」を行う必要があります。

要　点

エンジンを水中で、以下の負荷で（プロペラを取り付けた状態）運転してください。10 時間の慣らし運転の時は、長時間のアイドリング運転を避け、また高い波や船舶が密集した水域を避けるようにしてください。

(1) 最初の 1 時間：
エンジンを最大 2000r/min まで回転を上げながら運転するか、またはスロットルの開度を約半分で運転します。
(2) 次の 1 時間：
スロットルの開度を約 4 分の 3 もしくは、エンジン回転数を 3000r/min 付近で運転してください。
(3) 最後の 8 時間：
エンジンを任意の速度で回転させます。しかし、一度に 5 分間以上スロットルを全開の状態で走らせないようにしてください。
(4) 10 時間以降：
通常にご使用できます。

JMU36402

ボートをよく知ろう

ボートにより扱い方は異なります。ボートを異なる条件、トリム角度で操縦することを練習している間は、注意して運転してください。38ページを参照ください。

JMU36414

始動前点検

JWM01922

⚠警 告

始動前点検中に異常が見つかったときには、修理や整備を済ませてから使用してください。事故につながる恐れがあります。

JCM00121

注 意

冷却水を供給せずにエンジンを運転しないでください。オーバーヒートしてエンジンが損傷します。

JMU36561

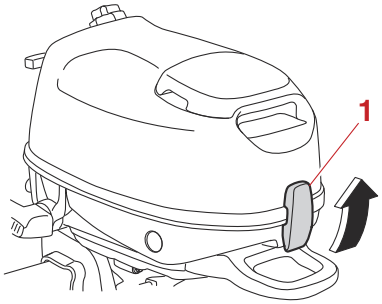
燃料残量

航行に必要な燃料を十分積んでいることを点検してください。燃料消費の良い目安は、三分の一で目的地に達し、帰路用に三分の一を使用し、残る三分の一は非常用予備としておくことです。トレーラまたは水上で水平に保持し燃料残量を点検してください。燃料の補給については、29ページを参照してください。

JMU39841

トップカウルの取り外し

船外機からトップカウルを取り外して、以下の点検を行ってください。
トップカウルを取り外すには、カウルロックレバーを引き上げてロックを解除し、トップカウルを持ち上げます。



1. カウルロックレバー

JMU36443

燃料系統

JWM00061

⚠警 告

ガソリンは、高い引火性と爆発性があります。タバコ等の火気や他の火種になるようなものを近づけないでください。

JWM00911

⚠警 告

- **燃料漏れは火災や爆発の原因となりますので、常に点検をしてください。**
- **燃料漏れが見つかった場合は、直ちにヤマハ取扱店で修理を行ってください。**

JMU36453

燃料漏れの点検

- ボート内の燃料漏れを点検してください。
- 燃料系統からの燃料漏れを点検してください。
- 燃料タンク及び燃料ホースを点検して、ひび割れ、膨れ、その他の損傷の有無を点検してください。

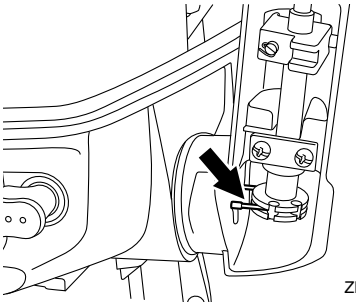
JMU39853

コントロールシステムの点検

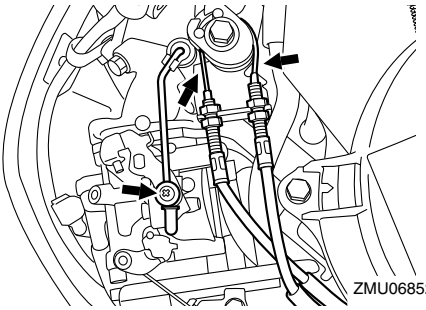
(1) ティラーハンドルを左右いっぱい動かして、スムーズに動くことを確認してください。
(2) スロットルコントロールグリップを全閉から全開に回し、動きがスムーズであることを確認し、スロットルコント

ロールグリップが完全に全閉位置に戻ることを点検してください。

(3) スロットルケーブルとスロットルリンクの接続に緩みや損傷がないか点検してください。

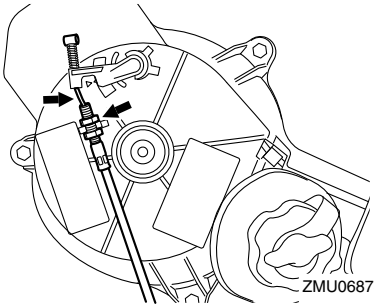


ZMU06851



ZMU06852

(4) シフトリンクと始動安全ケーブルの接続に緩みや損傷がないか点検してください。

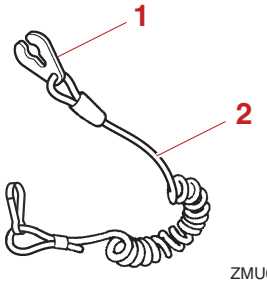


ZMU06874

JMU36484

エンジンシャットオフコード(ランヤード)

エンジンシャットオフコードやロックプレートに切れ目や割れ、摩耗などの損傷がないか点検します。



ZMU06873

1. ロックプレート
2. エンジンシャットオフコード

JMU39385

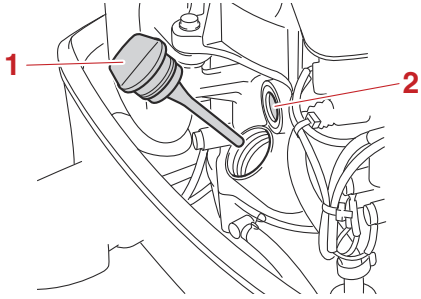
エンジンオイル

(1) 船外機を垂直な状態にします。 ***注意：*** **船外機が垂直な状態（チルトアップしていない）でなければ、オイルレベルを正しく計ることはできません。**

[JCM01791]

(2) トップカウルを取り外します。

(3) オイル給油キャップを外し、オイルレベルゲージに付着しているオイルを拭き取ります。



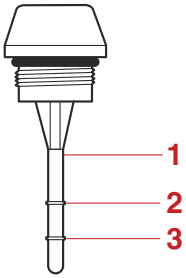
1. 給油キャップ
2. オイル潤滑確認窓

要　点

オイル潤滑確認窓では、エンジンオイル量は確認できません。オイル潤滑確認窓は、エンジン運転中に、エンジンオイルが潤滑していることを確認する時に使用します。

(4) オイル給油キャップを完全に締め付けます。

(5) 再びオイル給油キャップを外し、オイルの油面がオイルレベルゲージの上限マークと下限マークの間にあるか確認します。油面が下限マークより低い場合はオイルを補充します。油面が上限マークより高い場合は、上限マークと下限マークの間にくるまでオイルを抜き取ります。



1. オイルレベルゲージ
2. 上限マーク
3. 下限マーク

(6) オイル給油キャップを完全に締め付けます。

(7) トップカウルを取り付けます。

JMU27154

船外機本体

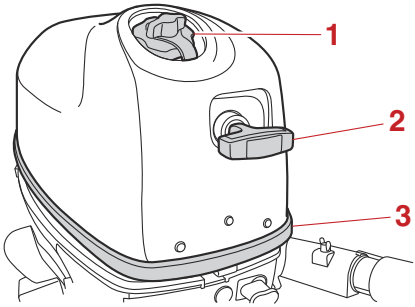
- エンジン取り付けボルトの緩みや、取り付けの状態を点検してください。
- プロペラの損傷を点検してください。
- エンジンオイル漏れを点検してください。

JMU39862

トップカウルの取り付け

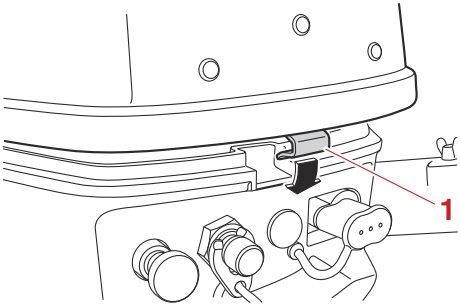
(1) ラバーシールに損傷がないことを確認します。損傷があった場合は、ヤマハ販売店に修理を依頼してください。

(2) 燃料タンクキャップとマニュアルスターターハンドルをトップカウルの穴に合わせます。



1. 燃料タンクキャップ
2. マニュアルスターターハンドル
3. ラバーシール

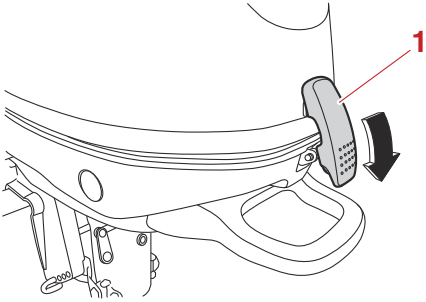
(3) トップカウルのフックをボトムカウルに引っ掛け、燃料タンクキャップとマニュアルスターターハンドルがトップカウルの穴に合っている事を確認します。



1. フック

(4) ラバーシールがトップカウルとボトムカウルの間に合っている事を確認します。

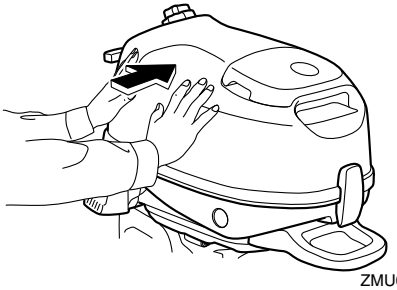
(5) カウルロックレバーでトップカウルを固定します。



1. カウルロックレバー

(6) トップカウルを両手で押して、確実に取り付けられているかを点検します。

注意： **トップカウルを正しく取り付けないと、水しぶきによるエンジン損傷や高速航行時にトップカウルが吹き飛ぶ恐れがあります。** [JCM01992]



ZMU06739

JMU39875

燃料タンクへの給油

JWM01951

⚠警 告

ボートトランサムや専用スタンドに船外機をしっかりと固定してください。

JWM01831

⚠警 告

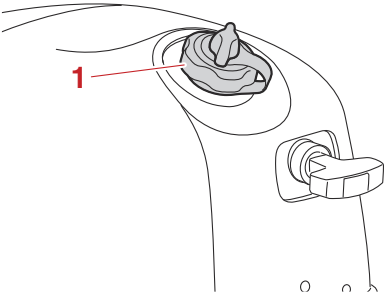
- **ガソリンおよびそれが気化した蒸気は極めて引火性が高く、爆発する恐れがあります。火災や爆発の危険を回避するために、常にこの手順に従って給油してください。**
- **ガソリンは毒性があり、傷害または死亡に至る恐れがあります。取り扱いには十分に注意を払ってください。口でガソリンを吸い上げることは決してしないでください。万一、ガソリンを飲み込んだり、または多量の揮発蒸気を吸ったり、または目に入ったりした場合、ただちに医師の診断を受けてください。万一、ガソリンが皮膚にこぼれた場合、石鹸と水で洗ってください。衣類に付着した場合は、着替えてください。**

以下の項目を確認してから給油をしてください。

- ボートを換気の良い場所にしっかり係留してください。トレーラ上に搭載した場合は、安定した状態であることを確認し、エンジンを停止してください。
- タバコを吸わないでください。また、スパーク（火花）、火炎、静電気その他の発火源から離してください。
- 携帯用のガソリン容器を使用して燃料の貯蔵と給油を行う場合は、消防法に適合したガソリン容器のみを使用してください。
- 静電気による火花を防止するために、身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。

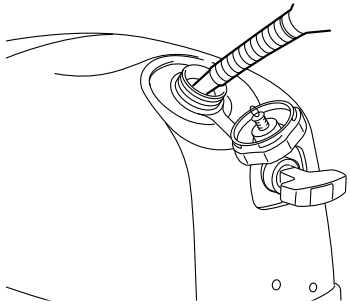
一体型燃料タンクへの給油

(1) 燃料タンクキャップを開けます。



1. 燃料タンクキャップ

(2) 燃料タンクに燃料を給油します。
警告！ 燃料を入れすぎないようにしてください。入れすぎた場合、温度の上昇によって、燃料が膨張し溢れることがあります。 [JWM02611]

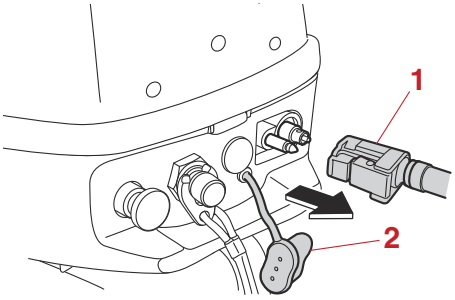


燃料タンク容量（一体型燃料タンク）：
1.1 L

(3) 燃料タンクキャップを確実に閉めます。
(4) こぼれたガソリンはただちに乾いたウエスで拭き取ってください。ガソリンを拭いたウエスは、正しい方法で廃棄してください。

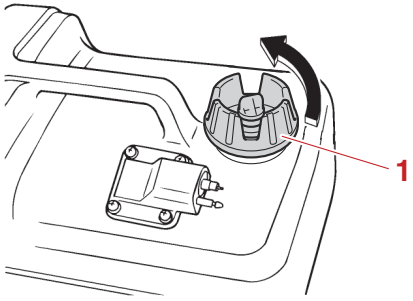
オプション別体型燃料タンクへの給油

(1) 燃料タンク側の燃料ホースコネクターを外し、エアベントスクリュを閉めます。



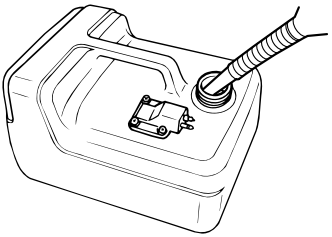
1. 燃料ホース
2. 燃料ホースコネクターキャップ

(2) 燃料タンクをボートから降ろします。
(3) 燃料タンクキャップを取り外します。



1. 燃料タンクキャップ

(4) 別体型燃料タンクに給油します。
警告！ 燃料を入れすぎないようにしてください。入れすぎた場合、温度の上昇によって、燃料が膨張し溢れることがあります。 [JWM02611]



ZMU06832

(5) 燃料タンクキャップを確実に閉めます。
(6) こぼれたガソリンはただちに乾いたウエスで拭き取ってください。ガソリンを拭いたウエスは、正しい方法で廃棄してください。

JMU27453

エンジン操作

JWM00421

⚠警 告

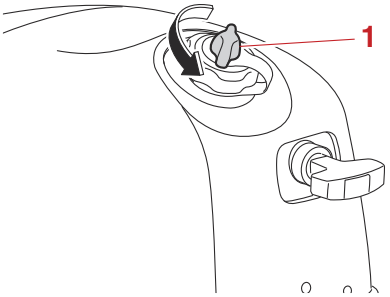
- **エンジン始動前にはボートを確実に係留し、付近に遊泳者がいないことや、障害物等がないことを確認してください。**
- **エアベントスクリュを緩めるときは、燃料がにじみ出たり燃料の揮発蒸気が漏れることがあります。火災や爆発の原因となりますので、タバコ等の火気は近づけないでください。**
- **排気ガスは一酸化炭素を含み中毒をおこす恐れがあります。ボートハウスなどの閉め切った場所ではエンジンを始動させないでください。**

JMU39396

燃料供給

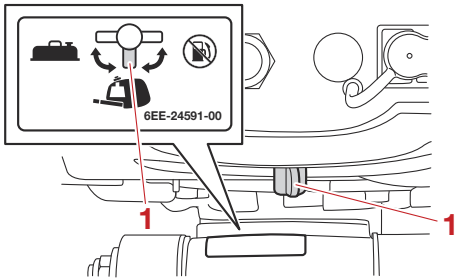
一体型燃料タンクでの燃料供給手順

(1) エアベントスクリュを１～２回転緩めます。



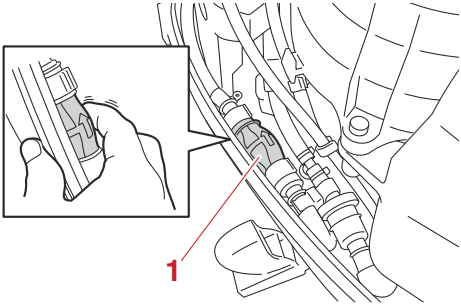
1. エアベントスクリュ

(2) 燃料コックを一体型燃料タンクの位置に合わせます。

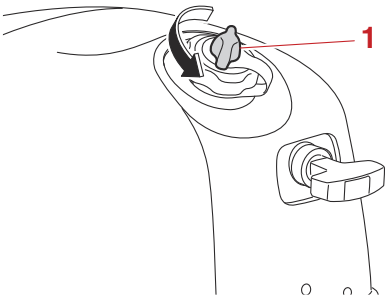


1. 一体型燃料タンクの位置

(3) 初動始動時や長期保管後の始動のときは、トップカウルを取り外し、ボトムカウル内のプライマリポンプでキャブレタに燃料を送ります。プライマリポンプを繰り返し握り、プライマリポンプが少し固くなったらトップカウルを取り付けます。



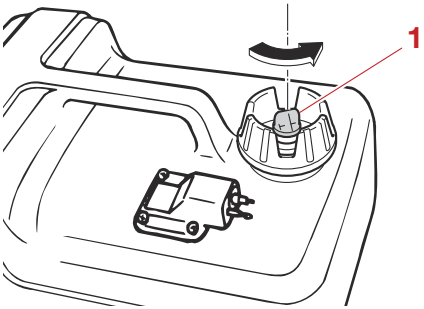
1. プライマリポンプ



1. エアベントスクリュ

<u>オプション別体型燃料タンクでの燃料供給手順</u>

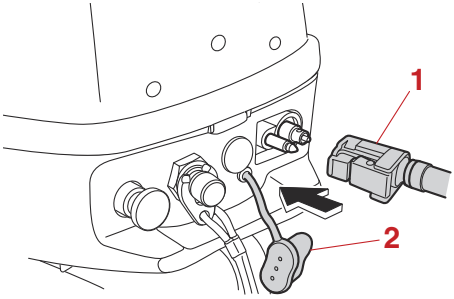
(1) 別体型燃料タンクのエアベントスクリュを2～3回転緩めます。



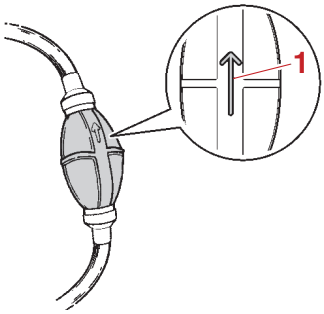
1. エアベントスクリュ

(2) 一体型燃料タンクに燃料が入っている場合は、燃料タンクの膨張を防ぐために、一体型燃料タンクのエアベントスクリュを1～2回転緩めます。

(3) 燃料ホースコネクターキャップを外します。プライマリポンプの矢印が船外機側に向くように、燃料ホースコネクターの方向を合わせ、つまみながら燃料タンクと燃料ホースコネクターに燃料ホースを確実に接続します。

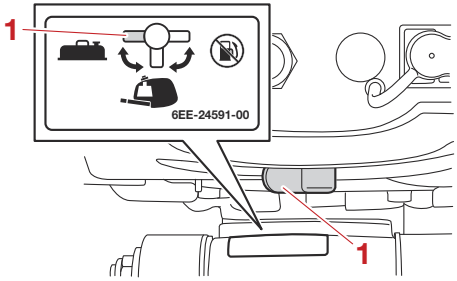


1. 燃料ホース
2. 燃料ホースコネクターキャップ



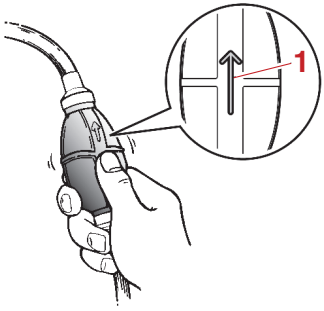
1. 矢印

(4) 燃料コックを別体型燃料タンクの位置に合わせます。



1. 別体型燃料タンクの位置

(5) プライマリポンプの矢印を上にした状態で、プライマリポンプが固くなるまで繰り返し握ります。航走中は別体型燃料タンクを水平に保って下さい。



1. 矢印

JMU27497

エンジン始動

JWM01601

⚠警 告

エンジンを始動する前に、ボートがしっかり係留されていること、各作動部分がスムーズに機能することを確認してください。また、付近に遊泳者がいないことを確認してください。

JMU39407

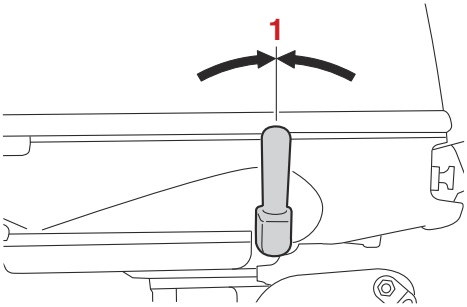
手動始動

JWM01842

⚠警 告

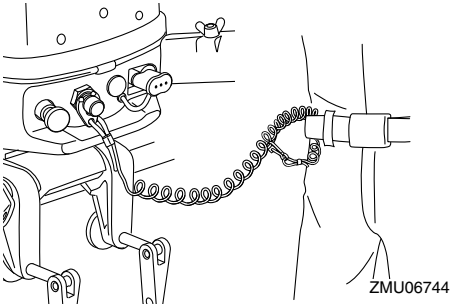
- **エンジンシャットオフコードを付けないと操船者が船外に投げ出されたときにボートが暴走する恐れがあります。操船中はエンジンシャットオフコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付けてください。衣服の緩みそうな場所にはエンジンシャットオフコードを付けないでください。また、操船に支障をきたすような場所への取り付けは行なわないでください。**
- **航走中はエンジンシャットオフコードが身体や周辺の機器等に引っ掛かり不意にロックプレートが外れないようにしてください。操船に支障をきたすばかりでなく、ロックプレートが外れることにより急減速され同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。**

(1) ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）にします。

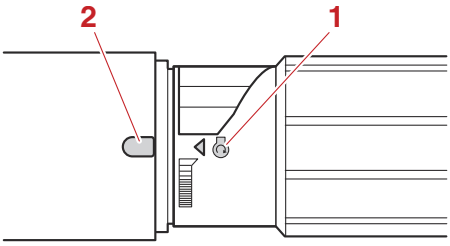


1. 中立（ニュートラル）の位置

(2) エンジンシャットオフコードを衣服、手もしくは足に確実に取り付け、ロックプレートを緊急エンジン停止スイッチに差し込みます。



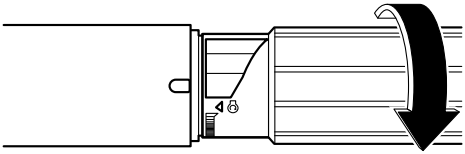
(3) スロットルグリップのスタートマーク“⏻”をティラーハンドルの合わせマークに合わせます。



1. スタートマーク“⏻”
2. 合わせマーク

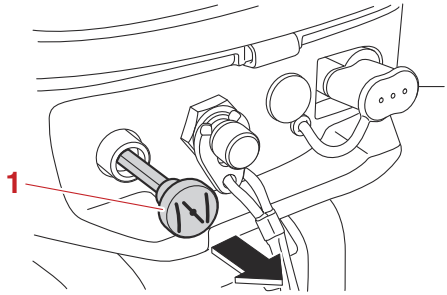
要　点

-15°C 以下のときは、スタートマーク“⏻”からさらにスロットルを開きます。



ZMU06865

(4) チョークノブをいっぱいまで引きます。

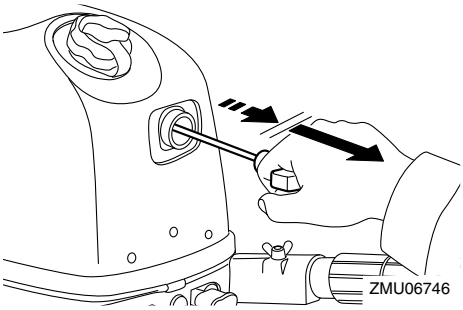


1. チョークノブ

要　点

暖機運転を行った直後などのエンジン再始動のときには、チョークノブを引く必要はありません。

(5) 抵抗を感じるまで、マニュアルスターターハンドルをゆっくりと引きます。そこから、船首側に一気に強く引いてエンジンを始動させます。

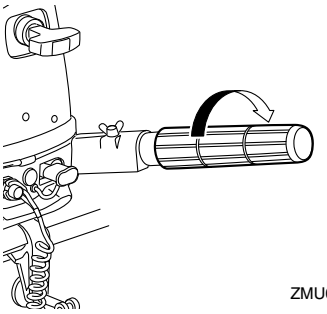


(6) エンジン始動後は、マニュアルスターターハンドルをゆっくりと元の場所に戻します。

(7) 暖機運転をします。暖機運転については、35ページを参照してください。

(8) チョークノブを戻します。

(9) スロットルコントロールグリップを全閉の位置に戻します。



JMU36511

エンジン始動後の点検

JMU36524

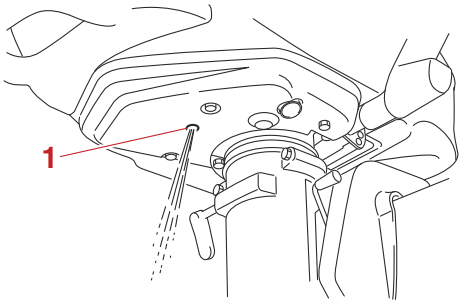
冷却水

冷却水点検孔から勢いよく水が出ていることを点検してください。水が常時流れているということは、ウォーターポンプが冷却経路を通じて水を送っていることを意味します。冷却経路が凍結している場合は、冷却水点検孔から水が流れ出るまでに少し時間がかかることがあります。

JCM01811

注 意

エンジンが運転中にもかかわらず冷却水点検孔から水が一定して出ない場合は、オーバーヒートや重大な損傷が発生する恐れがあります。エンジンを停止して、冷却水取入口と冷却水点検孔の詰まりを点検してください。問題点が特定できず解決できない場合はヤマハ取扱店で点検を受けてください。



1. 冷却水点検孔

JMU27671

暖機運転

JMU40073

暖機運転方法

エンジンが始動したらチョークノブを半分位戻し、最初の５分間程度はスロットルコ

ントロールグリップを５分の１以下に押さえ運転しながら暖機をしてください。暖機後はチョークノブを戻します。 ***注意：*** **暖機運転を怠るとエンジンの寿命が短くなることが考えられます。** [JCM04550]

要　点

- チョークノブを引いたままの状態にしておくと、エンジンが停止してしまいます。
- -5℃ 以下の時はエンジン始動後約 30 秒程チョークノブをいっぱいに引いたままにします。その後は通常の暖機と同じ操作をします。

JMU36532

暖機運転後の点検

JMU36542

シフト操作

ボートを確実に係留し、スロットルを使用しない状態でシフトが前進、後進、中立（ニュートラル）にスムーズに変わることを点検してください。

JMU36973

エンジン停止スイッチ

以下の手順に従って、エンジン停止ボタンと緊急エンジン停止スイッチが正常に作動するか点検してください。

- エンジン停止ボタンを押すと、エンジンが停止することを点検してください。
- 緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを取り外すと、エンジンが停止することを点検してください。
- 緊急エンジン停止スイッチにロックプレートが付いていない状態では、エンジンが始動しないことを点検してください。

JMU39344

前進／後進

JWM00181

⚠警 告

前進、後進をする前に、付近に遊泳者がいないことや障害物等がないことを確認してください。

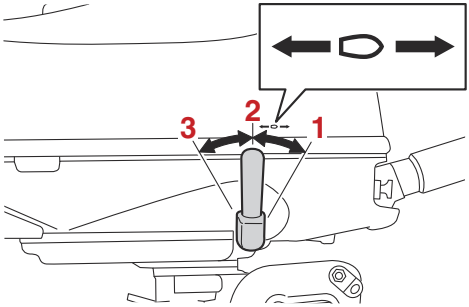
JCM02221

注 意

スロットルコントロールグリップを全閉の位置にして、アイドル回転の状態にしてからシフト操作を行ってください。エンジン回転が高い状態でシフト操作を行うと、シフト機構に損傷を与える恐れがあります。

前進または後進への操作

ギヤシフトレバーを前進位置または後進位置にします。

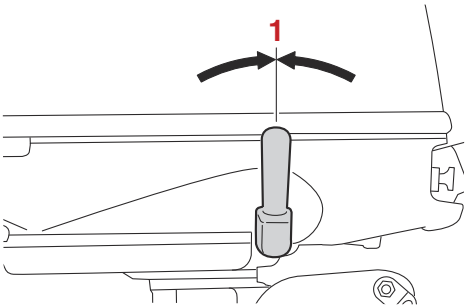


1. 前進の位置
2. 中立（ニュートラル）の位置
3. 後進の位置

中立（ニュートラル）への操作

(1) アイドル回転数になるように、スロットルを閉じます。

(2) ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）の位置にします。



1. 中立（ニュートラル）の位置

JMU39883

停船

JWM02322

⚠警 告

減速や停船するために後進操作をしないでください。ボートの操船不能や、乗船者が船外へ投げ出されたり、積荷などに身体を打ち付ける原因となります。このような事態は、深刻なけがをする原因となります。また、シフト機構に損傷を与える原因となります。

船には停船装置がありません。シフト中立（ニュートラル）操作後、エンジン回転数減少に伴う水の抵抗により停船します。停船距離は、総重量、水面の状態、風向によって異なります。

JMU27824

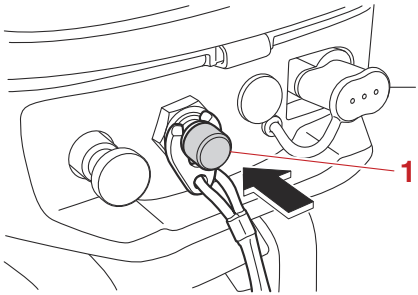
エンジン停止

エンジンを冷やすために、ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）の位置にして、数分間アイドリングを行います。高いエンジン回転での航走後は、すぐにエンジンを停止しないでください。

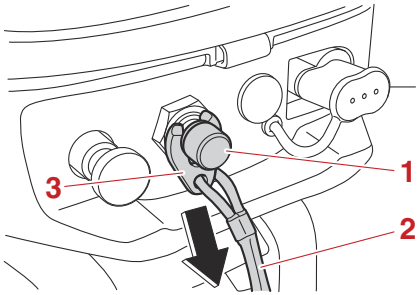
JMU39413

エンジン停止手順

(1) エンジンが停止するまでエンジン停止ボタンを押します。もしくはエンジンシャットオフコードを引っ張って緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを引き抜き、エンジンを停止します。

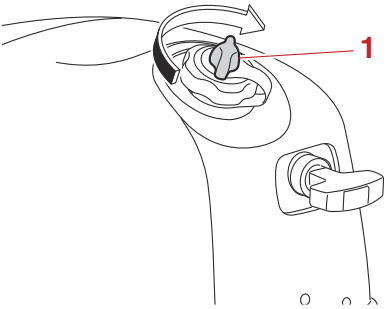


1. エンジン停止ボタン

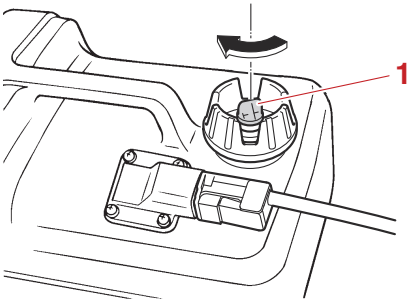


1. 緊急エンジン停止スイッチ
2. エンジンシャットオフコード
3. ロックプレート

(2) エアベントスクリュを閉めます。

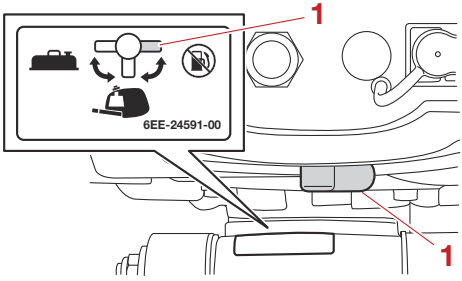


1. エアベントスクリュ



1. エアベントスクリュ

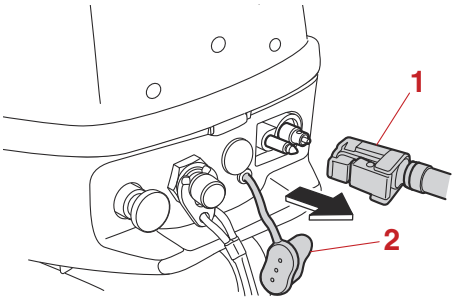
(3) 燃料コックを閉めます。



1. 全閉位置

(4) 別体型燃料タンクを使用した場合は燃料ホースを外し、燃料ホースコネクターキャップを取り付けます。**警告！**

別体型燃料タンクを使用しない時は、燃料ホースコネクターキャップを取り付けてください。誤って燃料ホースコネクターに当たった場合、けがをする恐れがあります。 [JWM02412]



1. 燃料ホース
2. 燃料ホースコネクターキャップ

JMU27865

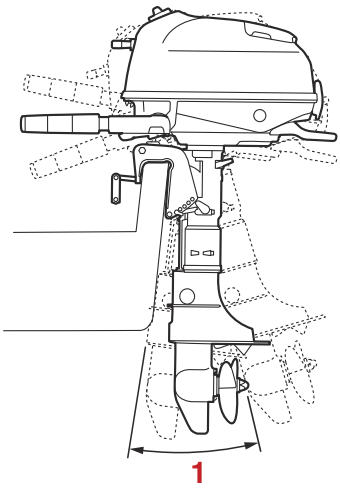
船外機トリム角度

JWM00741

⚠警 告

過度なトリム角度の調整は、ボートの安定性や操船に支障をきたし事故につながる恐れがあります。ボートの安定性や操船に異常を感じた場合は、ただちに航走スピードを落とすかトリム角度の再調整を行なってください。

船外機のトリム角度は、航走中のボートの船首の高さの位置決めに使います。トリム角度が適正であれば、最大限の性能が発揮され燃費も向上します。適正なトリム角度は、船体、エンジン、プロペラの組み合わせで決まります。また、適正なトリム角度は、ボートの負荷、海況、航走スピード等によって変わります。



1. トリム範囲

JMU39273

トリム角度の調整

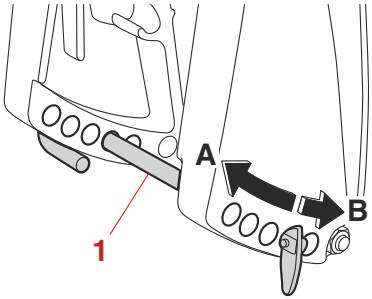
JWM00401

⚠警 告

- **トリム角度を調整する前には、必ずエンジンを停止してください。**
- **チルトピンを外したり差し込んだりする場合は、手を挟まれないように注意してください。**
- **チルトピンの位置を変えて最初に操船するときは、十分注意をしてください。徐々にスピードを上げ、ボートの安定性を欠く兆候や操作系の問題が無いかを見てください。不適切なトリム角度は、操船に支障をきたします。**

船外機トリム角度の調整用の穴がブラケットに５ヵ所あります。船外機のトリム角度は、５段階で調整できます。

(1) エンジンを停止します。
(2) 船外機をチルトアップした状態でチルトピンを外します。



1. チルトピン

(3) 船首を上げるときは“A”方向の穴にチルトピンを差し込みます。船首を下げるときは“B”方向の穴にチルトピンを差し込みます。

要　点

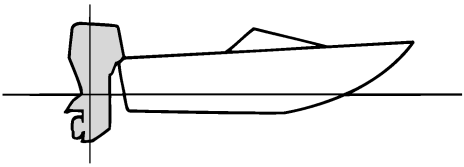
船外機のトリム角度は、チルトピンを１段ずらすことにより約4°変わります。

(4) トリム角度を変えて試走を行い、ボートの種類や使用状況に合わせて最適な位置を選んでください。

JMU27913

トリム角度の設定とボートの取り扱い

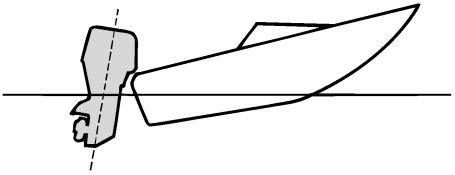
ボートが滑走する際、一般的に船首はキールラインが水面よりも 3°～5°上がっている状態が安定し、効率もよくなります。船外機トリム角度を大きく取ったときは、ボートは左右どちらかにハンドルを取られる傾向を示す場合があります。そのときはステアリング操作で補ってください。



ZMU01784

船首上がり

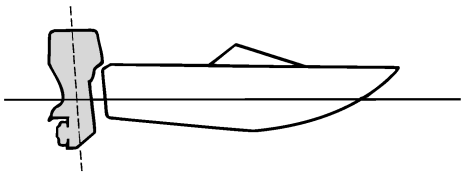
船外機のトリム角度を大きく取りすぎた場合は、航走中に船首が上がり過ぎます。この状態は船底への水の抵抗が増し、性能や燃費が低下します。更に過度のトリムアップは、プロペラがエアドローを引き起こし大きな性能低下を招きます。また、ボートが飛び跳ね乗員が船外へ投げ出される恐れもあります。



ZMU01785

船首下がり

船首が下がっているときは、停止状態からの発進加速が良くなります。高速航走での過度のトリムダウン（トリムイン）は、船首の抵抗が大きくなり、操船が困難となりボートの安定性を欠き危険を招く恐れがあります。



ZMU01786

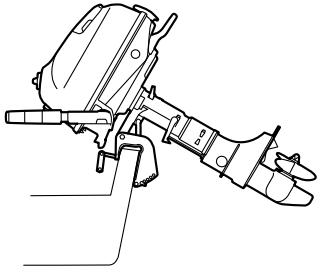
要　点

ボートの種類によっては、船外機のトリム角度の調整を行なっても航走姿勢が殆ど変化しないこともあります。

JMU39593

チルトアップ／ダウン

係留保管や浅瀬での係留時には、電食（水中の微弱電気による金属の腐食）や海草類の付着によってプロペラやロワーケースが損傷を受けないように船外機をチルトアップします。



ZMU06840

JWM00223

⚠警　告

チルトアップ／ダウンの操作をするときは、付近に人が居ないこと確認してください。船外機とクランプブラケットの間に身体が挟まれる危険があります。

JWM02313

⚠警 告

燃料漏れは火災の原因となります。船外機をチルトアップする時は、エアベントスクリューを閉め、フューエルコックを全閉の位置にして下さい。これらの作業を怠ると燃料漏れの原因となります。

JCM02162

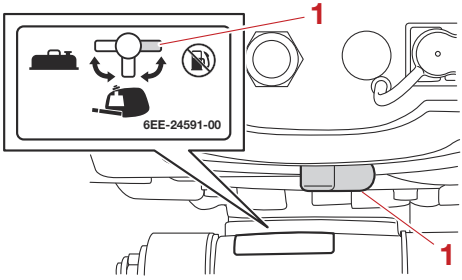
注 意

- **エンジンを停止してから、チルトアップしてください。エンジン運転中にチルトアップした場合、オーバーヒートによる損傷を受けます。**
- **ティラーハンドルを押さえつけてチルトアップしないでください。ティラーハンドルを損傷させる恐れがあります。**
- **ギヤシフトレバーが後進の位置にある時はチルトアップできません。**

JMU39553

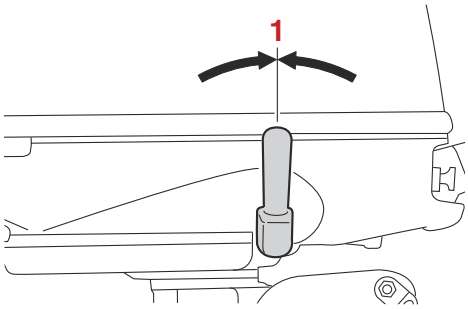
チルトアップ

(1) 燃料コックを閉じます。



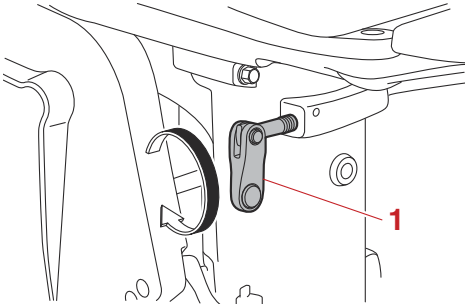
1. 全閉位置

(2) ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）にします。



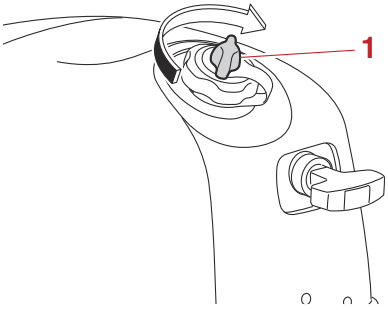
1. 中立（ニュートラル）の位置

(3) ステアリングが動くのを防ぐために、ステアリングフリクションアジャスターを時計方向に回します。



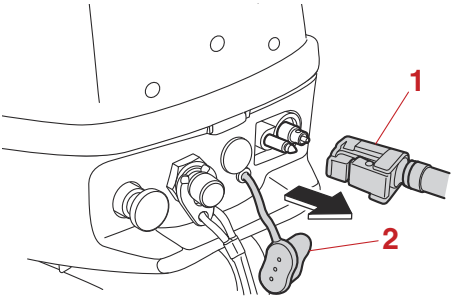
1. ステアリングフリクションアジャスター

(4) エアベントスクリュを閉めます。



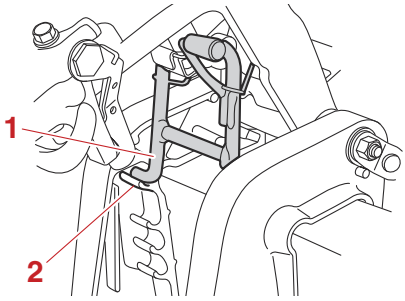
1. エアベントスクリュ

(5) 別体型燃料タンクを使用した場合は燃料ホースを外し、燃料ホースコネクターキャップを取り付けます。**警告！ 別体型燃料タンクを使用しない時は、燃料ホースコネクターキャップを取り付けてください。誤って燃料ホースコネクターに当たった場合、けがをする恐れがあります。** [JWM02412]



1. 燃料ホース
2. 燃料ホースコネクターキャップ

(6) トップカウルの後部を持ち、船外機をいっぱいまで上げます。船外機をいっぱいまで上げた状態から少し下げ、チルトサポートバーをクランプブラケットにあるホルダーに入れます。

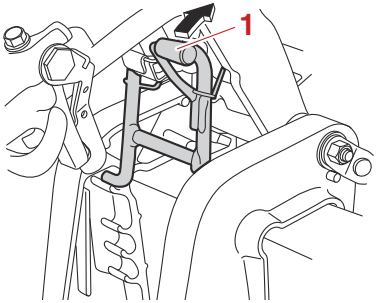


1. チルトサポートバー
2. ホルダー

JMU39572

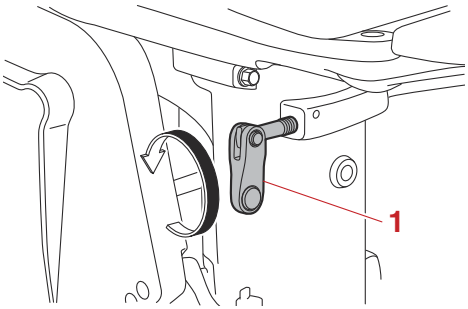
チルトダウン

(1) 船外機を少し持ち上げます。
(2) チルトサポートバーを引き上げたまま、ゆっくりと船外機を降ろします。



1. チルトサポートバー

(3) ステアリングフリクションアジャスターを反時計回りに回して緩め、ステアリングの動きを操船者の好みに合わせ調整します。**警告！ ステアリング操作の抵抗が大きすぎると操作に支障をきたし事故につながる恐れがあります。** [JWM00722]



1. ステアリングフリクションアジャスター

JMU28063

浅瀬航走

JMU39892

浅瀬航走

JWM02392

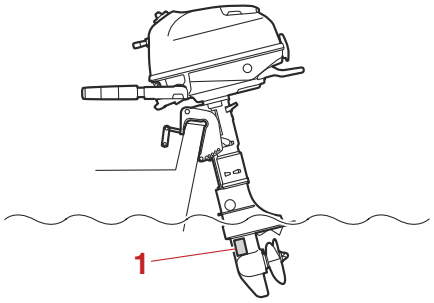
⚠警 告

- **浅瀬航走をしている時は、低速で運転してください。水中の障害物等に衝突した場合、船外機が水面上に跳ね上がり、操船に支障をきたす恐れがあります。**
- **浅瀬航走をしている時は、後進しないでください。後進時の推進力によって船外機が跳ね上がり、事故やけがの恐れがあります。**

JCM00261

注 意

浅瀬航走中は冷却水取入口が水面上へ出るまでチルトアップしないでください。オーバーヒートによる損傷を受けることが考えられます。

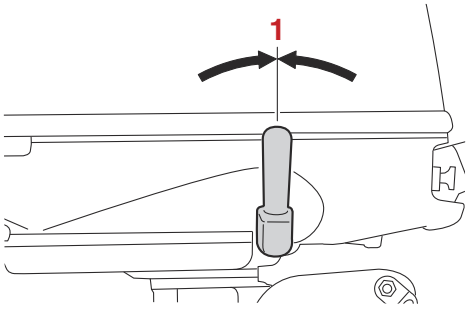


1. 冷却水取入口

JMU39584

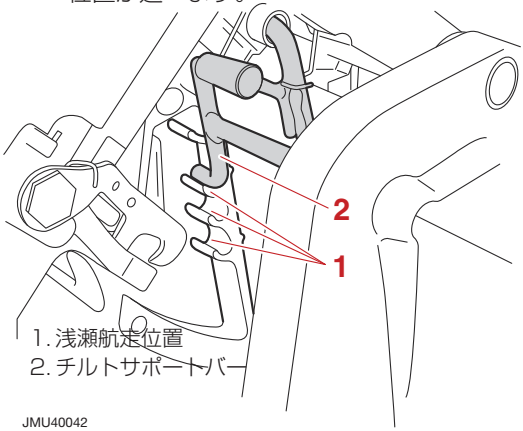
浅瀬航走セットの手順

(1) ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）にします。



1. 中立（ニュートラル）の位置

(2) トップカウルの後部を持ち、チルトサポートバーが自動的にロックするまで船外機を少し上げます。この状態で浅瀬航走ができます。３箇所の浅瀬航走位置が選べます。

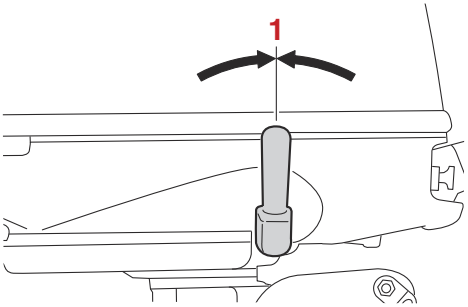


1. 浅瀬航走位置
2. チルトサポートバー

JMU40042

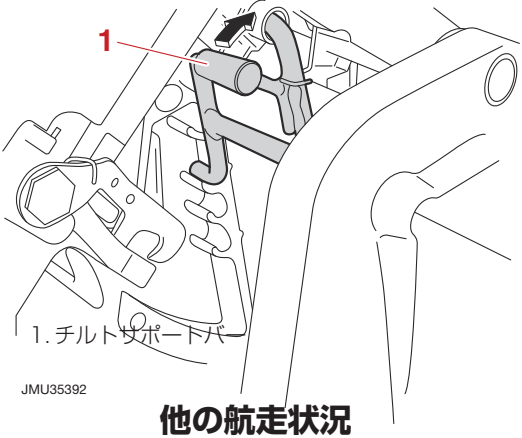
浅瀬航走解除の手順

(1) 船外機の航走位置を元の位置に戻すには、ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）にします。



1. 中立（ニュートラル）の位置

(2) 船外機を少し持ち上げ、チルトサポートバーを引き上げたままゆっくりと船外機を降ろします。



1. チルトサポートバー

JMU35392

他の航走状況

海水域での航行

海水域で航行後は、冷却経路を真水で勢いよく洗い流して、目詰まりが生じないようにしてください。船外機の外部も真水で洗ってください。

泥水や濁り水、酸性水域での航行

酸性水域や泥水、濁り水のような沈殿物の多い水域を航行した後は、冷却経路を真水で洗い流し、腐食を防止してください。船外機の外部も真水で洗ってください。

JMU39906

運搬と保管

JWM02631

⚠警 告

● 燃料容器の最大容量まで燃料を入れないでください。ガソリンは暖まることによって膨張し、燃料容器が膨張します。燃料漏れや火災の原因になります。
● 燃料漏れは火災の原因になります。船外機を運搬、保管する際は燃料コックを閉じ、燃料ホースコネクターを船外機から外し燃料漏れを防止します。
● チルトアップした船外機の下には絶対に入らないでください。偶発的原因で船外機が突然降下して、身体が挟まれる恐れがあり危険です。
● ボートを牽引しているときは、チルトサポートバーを使用しないでください。揺られてレバーが外れ、船外機が突然降下してくることがあります。船外機を通常の航走状態と同じ姿勢で運搬できないときは、更なる保持道具を使ってチルトアップした状態で船外機を確実に保持できるようにしてください。

JCM02441

注 意

燃料を長期間保管する際は、燃料を燃料タンクから抜いてください。燃料の劣化により、燃料系統が詰まりエンジンが始動しにくくなるばかりでなく、エンジンが不調になる可能性があります。

燃料を運搬や保管する際は、消防法に適合した携帯タンクに保管してください。
船外機を運搬、保管する際は、燃料に関する以下の項目を確認してください。
● 燃料ホースコネクターを船外機から外してください。
● 船外機の燃料コックを閉じ、一体型燃料タンク側の燃料タンクキャップとエアベントスクリュを確実に締めてください。
● 別体型燃料タンク側の燃料タンクキャップとエアベントスクリュを確実に締めてください。

ボートを係留保管、牽引する時など船外機を長期間チルトアップする際は、以下の項目を確認してください。
● 燃料ホースコネクターを船外機から外し、燃料ホースコネクターキャップを取り付けてください。
● 一体型燃料タンク側の燃料タンクキャップとエアベントスクリュを確実に締めてください。
● エアベントスクリュを締め、燃料コックを閉じてください。
● 別体型燃料タンク側の燃料タンクキャップとエアベントスクリュも確実に締めてください。

船外機の運搬と保管は通常の航走状態と同じ姿勢で行なってください。このときに、路面から十分に間がとれない場合は、チルトアップして船外機を確実に保持できるような道具（トランサムバー等）を使用して運搬してください。詳しくは、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。

JMU39424

船外機の取り外しと運搬

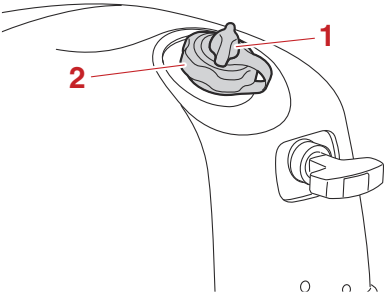
JWM02291

⚠警 告

船外機の取り付けや取り外しを行うときは、船外機が落下する恐れがあるため、トップカウルやティラーハンドルを持たないでください。

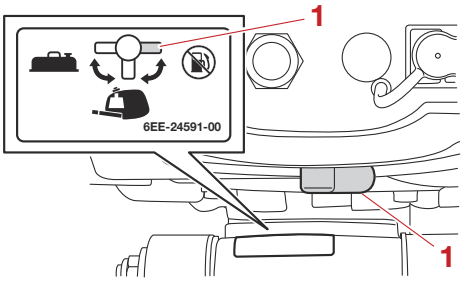
船外機の取り外し手順
(1) エンジンを停止して、船体を陸上に引き上げます。

(2) 燃料タンクキャップとエアベントスクリュをしっかり締めます。



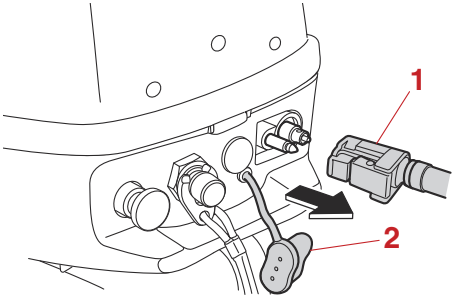
1. エアベントスクリュ
2. 燃料タンクキャップ

(3) 燃料コックを全閉位置に合わせます。



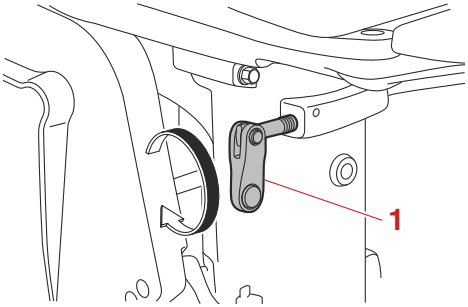
1. 全閉位置

(4) 別体型燃料タンクを取り付けている場合、燃料ホースを燃料ホースコネクターから外し、燃料ホースコネクターキャップを取り付けます。**警告！ 別体型燃料タンクを使用しない時は、燃料ホースコネクターキャップを取り付けてください。誤って燃料ホースコネクターに当たった場合、けがをする恐れがあります。** [JWM02412]



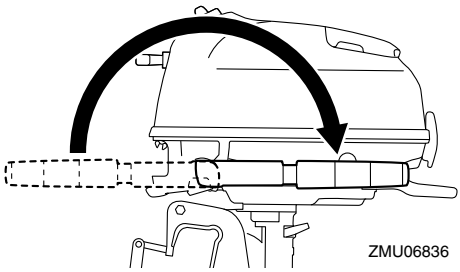
1. 燃料ホース
2. 燃料ホースコネクターキャップ

(5) ステアリングが動くのを防ぐために、ステアリングフリクションアジャスターを時計方向に回します。



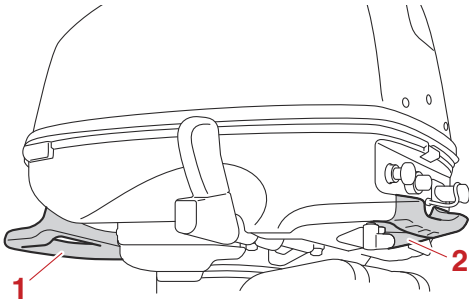
1. ステアリングフリクションアジャスター

(6) ティラーハンドルを船首側から船尾側へ180°倒して、後方に向けます。

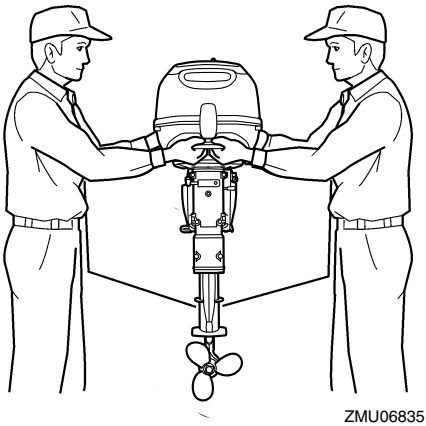


(7) クランプスクリューを緩めます。

(8) キャリングハンドルとハンドグリップをつかみ、２人で船外機を持ち上げて船体から取り外します。



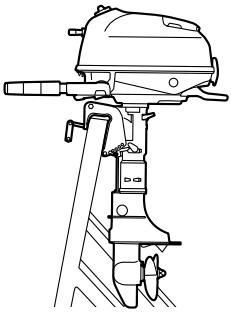
1. キャリングハンドル
2. ハンドグリップ



ZMU06835

船外機の運搬について

船体から船外機を取り外して単体で運搬や保管を行なう場合は、船外機スタンドを使用することを推奨します。



ZMU06761

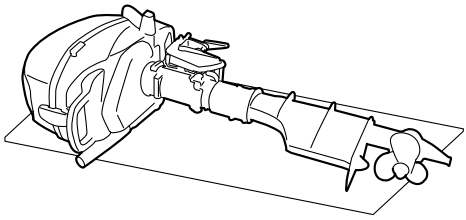
上記の姿勢を保てない場合は

船外機を横置きで運搬する場合は以下の注意事項を守ってください。

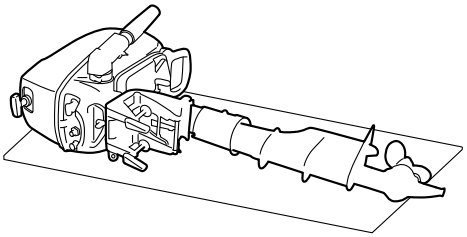
- クランプスクリューを完全に締め、船外機の下に必ずマットなどを敷いてください。船外機が傷ついたり、運搬時の振動で少量のオイルや冷却水が漏れる可能性があります。 ***注意：*冷却水が完全に抜けるまで、船外機を横にして置かないでください。冷却水が排気側からシリンダー内へ流れ込み損傷の原因になります。**

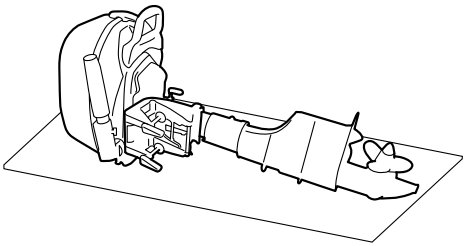
  [JCM05010]

- 船首側を下向きにする場合、クランプブラケットが地面に接しないようにクランプブラケットを 90°回転させ、ステアリングフリクションアジャスターを締めてから置いてください。

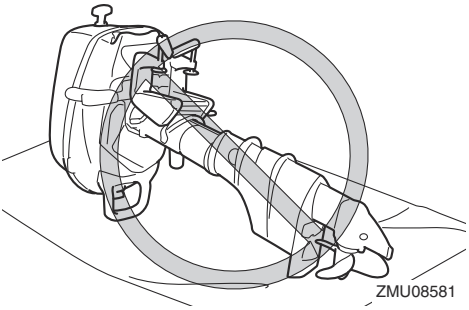


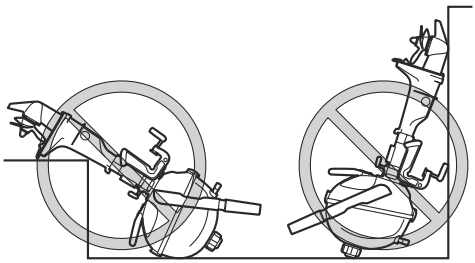
ZMU06806


ZMU06762


ZMU06807

- 上記以外の姿勢では船外機を横に置かないでください。


ZMU08581


ZMU08565

JMU49370

長期保管

船外機を長期にわたって保管する場合は、劣化損傷を防ぐためにヤマハ取扱店にて格納点検を受けることをおすすめします。
ご自身で長期保管される場合は、以下の作業を行ってください。

JCM02215

注 意

- **冷却水が完全に抜けるまで、船外機を横にして置かないでください。冷却水が排気側からシリンダー内へ流れ込み損傷の原因になります。**
- **“船外機の取り外しと運搬”で示された状態で運搬や保管を行ってください。**
- **船外機の保管は、乾燥した風通しの良い場所で行ってください。直射日光の当たる場所には置かないでください。**

JMU28306

保管手順

JMU39613

水槽を使った洗浄

JCM00302

注 意

エンジン始動する前に、冷却経路に水を供給してください。冷却水を供給せずにエンジンを運転すると、オーバーヒートしてエンジンが損傷します。

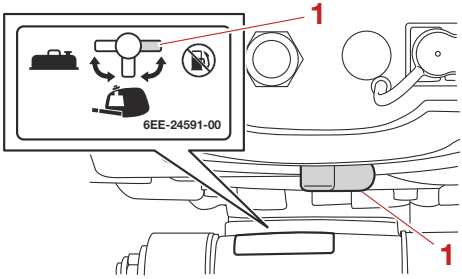
塩分、砂、ゴミなどによるエンジン冷却経路の目詰まりを防止するために洗浄が必要

です。さらにエンジン内に防錆剤（マリンガード）を吹き込むことにより、錆による損傷を防ぐことができます。洗浄と吹き込みは同時に行ってください。

(1) 真水を使って船外機外部を洗ってください。 ***注意：*** **インテークグリルに水を噴きつけないでください。** [JCM01841] 船外機外部の洗浄については、50ページを参照してください。

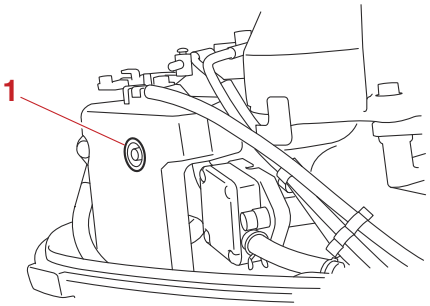
(2) 一体型燃料タンクを使用した場合、一体型燃料タンクを空にして、エアベントスクリュと燃料コックを閉めます。一体型燃料タンクを空にする際は、ヤマハ取扱店へ作業を依頼してください。

(3) 別体型燃料タンクを使用した場合は、燃料ホースを取り外して燃料ホースコネクターキャップを取り付け、燃料コックを全閉の位置に合わせます。



1. 全閉位置

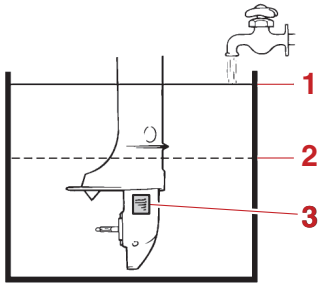
(4) トップカウルと吹き込み孔のキャップを取り外します。



1. キャップ

(5) プロペラを取り外します。プロペラの取り外しについては、60ページを参照してください。

(6) 船外機を水槽に入れます。



1. 水面
2. 最低の水位
3. 冷却水取入口

(7) キャビテーションプレートが浸かるまで真水を入れます。 ***注意：*** **水位がキャビテーションプレート以下の場合は冷却水の供給が十分に出来ず、エンジンに損傷をきたします。** [JCM00292]

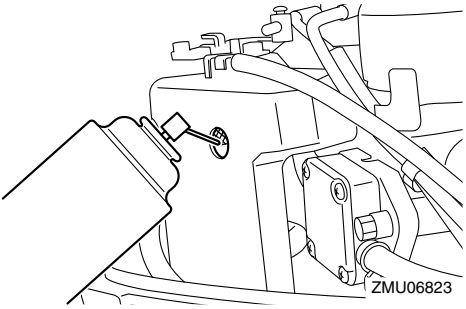
(8) シフトを中立（ニュートラル）にします。

(9) エンジンを始動し、数分間アイドリングで運転します。**警告！ エンジン運転**

中は電装部品に触れたり、外したりしないでください。エンジン運転中は、手、髪、衣服等を回転部品に巻き込まれないように近づけないでください。

[JWM00092]

(10)サイレンサーの吹き込み孔から素早く防錆剤（マリンガード）を吹き込みます。防錆剤（マリンガード）を吹き込むと、排気に白煙が混じり、エンジンが停止します。



(11)防錆剤（マリンガード）が入手できない場合、燃料系統内の燃料がなくなってエンジンが停止するまでアイドリングで運転します。エンジンが停止したことを確認し、スパークプラグを外します。小量のエンジンオイルをシリンダー内へ注入します。マニュアルスターターハンドルを４～５回引いて、オイルを行き渡らせます。スパークプラグを取り付けます。

(12)水槽から船外機を取り出します。

(13)船外機から冷却水を完全に抜き、表面を拭きあげます。

(14)吹き込み孔のキャップとトップカウルを取り付けます。

(15)プロペラを取り付けます。プロペラの取り付けについては、60ページを参照してください。

JMU41072

潤滑

(1) ギヤオイルを交換します。ギヤオイル交換の手順は、61ページを参照してください。ギヤオイル内に水が混ざっている場合は、オイルシールが損傷しています。航走前にヤマハ取扱店にて、オイルシールの交換を行ってください。

(2) すべてのグリス給脂箇所を潤滑します。グリス給脂箇所の詳細は 55ページを参照してください。

要　点

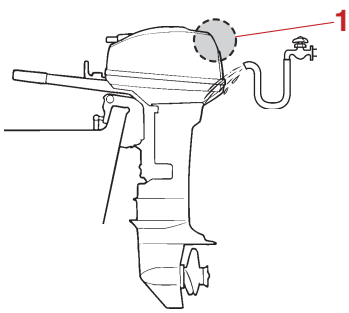
長期保存の場合は、防錆剤（マリンガード）をエンジンに噴霧することをおすすめします。防錆剤（マリンガード）と噴霧の方法については、ヤマハ取扱店にご相談ください。

JMU44342

船外機の洗浄

船外機を洗浄する際は、トップカウルを取り付けた状態で行ってください。

(1) 真水を使って船外機外部を洗ってください。 ***注意：*インテークグリルに水を噴きつけないでください。** [JCM01841]



1. インテークグリル

(2) 船外機から冷却水を完全に抜き、表面を拭きあげます。

JMU28463

船外機外装の点検

船外機本体表面の傷、破損、塗装の剥がれ、変色（白化）等がないか点検してください。塗装の剥がれがある場合は、ヤマハ船外機専用の塗料で補修してください。詳しくはヤマハ取扱店にご相談ください。

JMU37077

定期点検

JWM01982

⚠警 告

定期点検には特殊工具、補給品および技術スキルが必要です。お客様自身が整備作業についてあまり熟知されず、工具や補給品がない場合は、ヤマハ取扱店またはその他の有資格の整備士に保守を依頼してください。

この手順には、エンジンの分解作業と危険な部品の取り扱いが含まれます。可動、高熱または電気部品による負傷を防止するために：

- **お客様自身で整備作業をおこなう場合は、特別な指示がない限り、エンジンを停止して、各キー類とエンジンシャットオフコードを自分の身に付けて保管してください。**
- **高熱の部品や各種液体の取扱いは、エンジンが冷えた後でおこなってください。**
- **取り外した部品は必ず組み付けてからエンジンを運転してください。**

JMU34152

シビアコンディション

シビアコンディションとは、以下に示す操作を単独または組み合わせて行った場合を指します。

- 長時間にわたり、船外機を最大回転数(r/min)またはそれに近い回転数で継続して運転した場合
- 長時間にわたり、船外機を低い回転数(r/min)で継続して運転した場合
- 十分な暖機を行わず、また十分に冷やさないでエンジンを停止した場合
- 急加速と急減速を頻繁に行った場合
- シフト操作を頻繁に行った場合
- エンジンの始動と停止を頻繁に行った場合
- 積載物を軽い状態と重い状態とに頻繁に変化させて、運転した場合

上記のような条件で船外機を運転した場合、通常のメンテナンスサイクルよりも早いサイクルで整備を行う必要があります。当社は、整備手帳に定めた整備の周期に対し、その 1/2 の間隔で整備を行うようにお客様に勧告致します。たとえば、ある整備を 50 時間毎に実施すると定めている場合は、(上記のような過度の取扱い条件の場合)25 時間毎に整備を行ってください。そうすることにより、エンジン構成パーツの短期間での劣化を防ぐことができます。

JMU3056J

定期点検表 1

要　点

- 作業内容についての説明は本章の各項目を参照してください。
- この点検表は 1 年 200 時間を想定したメンテナンスサイクルで、使用後には冷却水通路の水洗が行われていることが基本となっています。シビアコンディションで使用した場合は、通常のメンテナンスサイクルよりも早めに点検を行ってください。
- 各部の点検結果により分解・修理作業を必要とする場合があります。
- 消耗部品及び油脂類は、保証期間によらず使用過程で確実に消耗・劣化します。
- 酸性水域や泥水、濁り水のような沈殿物の多い水域等でのご使用後は、真水を使って洗浄してください。お客様の船外機の使用状況により、点検時間が異なる場合がありますのでご了承ください。詳しくはヤマハ取扱店へご相談ください。

“●” 印の項目については、お客様ご自身で点検を行ってください。

“○” 印の項目については、最寄りのヤマハ取扱店に依頼してください。

項目	内容	初回	次回			ページ
		10時間（1ヶ月）	50時間（3ヶ月）	100時間毎（6ヶ月毎）	200時間毎（1年毎）	
アノード（外部取り付け）	点検／交換		●/○	●/○		62
アノード *1	点検／交換			○		—
冷却水漏れ	点検／交換	○	○	○		—
カウルロックレバー	点検				○	—
燃料フィルター（一体型使い捨てタイプ）	交換			○		—
燃料フィルター（ビルトインタンク内蔵タイプ）	点検／清掃				○	—
燃料ホース	点検	●	●	●		—
燃料ホース	点検／交換	○	○	○		—
燃料／エンジンオイル漏れ	点検	○	○	○		—
燃料タンク（一体型タイプ）	点検／清掃				○	—
燃料タンク（オプション別体型タイプ）	点検／清掃	○	○	○		—
ギヤオイル	交換	●/○		●/○		61

項目	内容	初回	次回			ページ
		10時間（1ヶ月）	50時間（3ヶ月）	100時間毎（6ヶ月毎）	200時間毎（1年毎）	
ギヤオイルの汚れ、漏れ	点検	●/○	●/○	●/○		61
グリスポイント	給脂	●/○	●/○	●/○		55
エンジンのかかり具合／騒音	点検	●/○	●/○	●/○		31
アイドル回転数／騒音	点検	○	○	○		—
プロペラ／プロペラナット／割ピン	点検／交換	●/○	●/○	●/○		59
シフトリンク	点検／調整／交換	○	○	○		—
サーモスタット	点検／交換				○	—
スロットルリンク／スロットルケーブル	点検／調整／交換	○	○	○		—
インペラー／ウォーターポンプハウジング	点検／交換			○		—
冷却水点検孔の水	点検	●/○	●/○	●/○		35
冷却水取入口	点検	●/○	●/○	●/○		—
エンジンオイル	交換	●/○		●/○		57
オイルフィルター(クランクケース)	点検／交換				○	—
バルブクリアランス	点検／調整				○	—
ストップスイッチ	点検／交換	○	○	○		—
ワイヤーリード接続部／ワイヤーカプラー接合部	点検／交換	○	○	○		—
スパークプラグ	点検／交換				●/○	56
スパークプラグキャップ／ハイテンションコード	点検／交換	○		○		—

JMU45880

*1 サーモスタットカバー

JMU2887E

定期点検表2

項目	内容	次回		ページ
		500時間毎（2年6ヶ月毎）	1000時間毎（5年毎）	
アノード *2	交換		○	—
燃料ポンプ	点検／交換	○		—
エキゾーストガイド、エキゾーストマニホールド	点検／交換		○	—

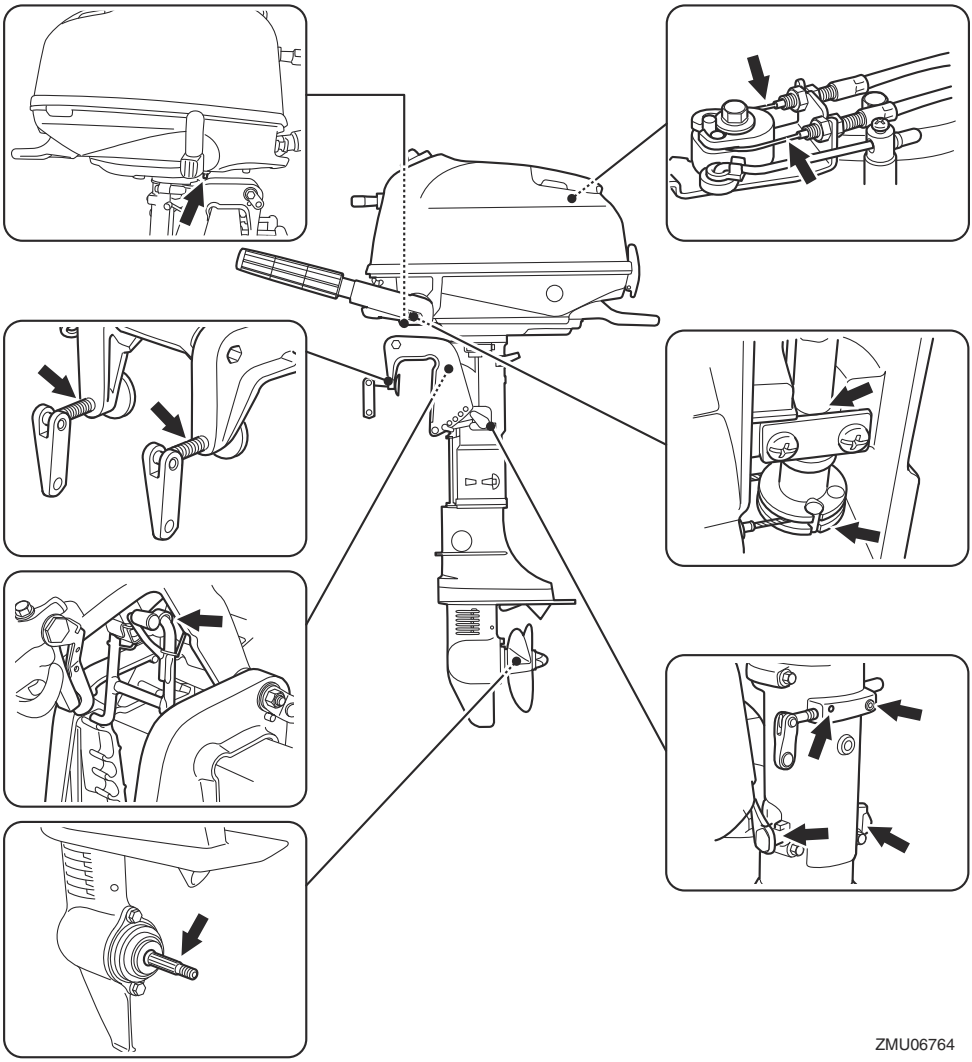
JMU45890

*2 サーモスタットカバー

JMU28946

グリス給脂箇所

ヤマルーブグリース A （耐水グリス）
ヤマハグリス D （耐食グリス）プロペラシャフト用



ZMU06764

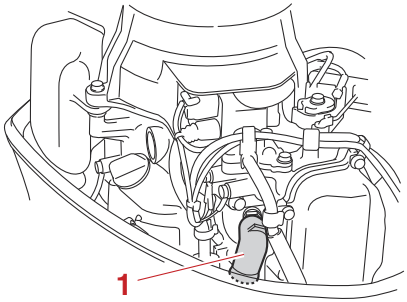
JMU39298

スパークプラグの点検

スパークプラグは、エンジンの重要な構成部品です。スパークプラグの状態によって、エンジンの状態を確認することができます。例えば、電極の中心の磁器がとても白い場合、そのシリンダーの吸気に漏れがあるか、燃料と空気の混合比に問題があることを示します。問題を発見した場合でも自己診断せず、ヤマハ取扱店に点検を依頼してください。スパークプラグは、熱や電極にカーボン等が付着して徐々に劣化するため、定期的に外して点検を行ってください。

スパークプラグの取り外し

(1) スパークプラグキャップを取り外します。



1. スパークプラグキャップ

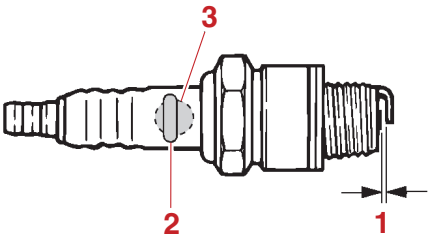
(2) スパークプラグを取り外します。
警告！ スパークプラグ脱着の際は、碍子を損傷させないように注意してください。漏電して、火災等を誘発する恐れがあります。 [JWM00562]

スパークプラグの点検

(1) スパークプラグの状態を点検します。電極が消耗していたり、カーボン等で汚れていたりする場合は、規定のスパークプラグに交換します。

標準スパークプラグ；
CR6HSB

(2) シックネスゲージを用いて電極の隙間を点検します。規定値を外れている場合は、規定のスパークプラグに交換します。



ZMU02179

1. スパークプラグギャップ
2. スパークプラグ品番
3. スパークプラグマーク (NGK)

スパークプラグギャップ；
0.6-0.7 mm

スパークプラグの取り付け

(1) スパークプラグのねじ部、絶縁体、ガスケットの汚れを拭きとります。
(2) スパークプラグを取り付け、規定トルクで締め付けます。

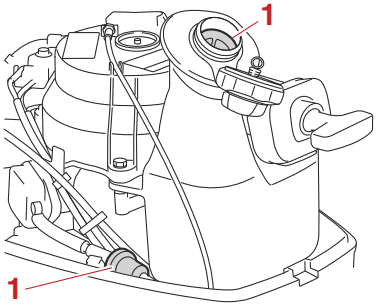
スパークプラグ締め付けトルク；
13 N·m

要　点

スパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できない時は、指でいっぱいに締め込んだ後、プラグレンチを使用して締め込みます。プラグレンチ使用時の締め込み目安は、再取り付けの場合は 1/12 回転、新品の場合は 1/2 回転締め込んでください。出来るだけ早い時期に、トルクレンチを使用して規定トルクで締めてください。

(3) スパークプラグキャップを取り付けます。

JMU39922
燃料フィルターの点検
燃料フィルターは、一体型燃料タンクの給油口内とボトムカウル内に装備されています。燃料フィルターを定期的に点検してください。燃料フィルターの中に異物等が混入している場合は、清掃または交換する必要があります。清掃または交換する際は、ヤマハ取扱店へ作業を依頼してください。



1. 燃料フィルター

JMU40141
アイドル回転数の点検
JCM02231
注 意

アイドル回転数の点検をするときは、冷却経路に冷却水を供給してください。

アイドル回転数の点検には、診断用のタコメーターが必要です。アイドル回転数の点検や調整については、ヤマハ取扱店にご相談ください。

JMU3951F
エンジンオイルの交換
JWM00761
⚠警 告

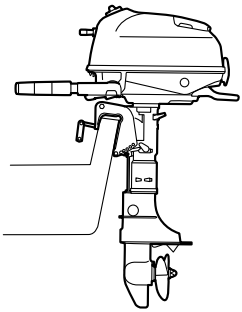
- **エンジン停止直後には、オイルがたいへん熱くなっていますので、すぐには排出しないでください。**
- **ボートトランサムや専用スタンドに船外機をしっかりと固定してください。**

JCM01241
注 意

初回は使用後 10 時間、その後は 100 時間、または 6 カ月毎にオイル交換を行ってください。

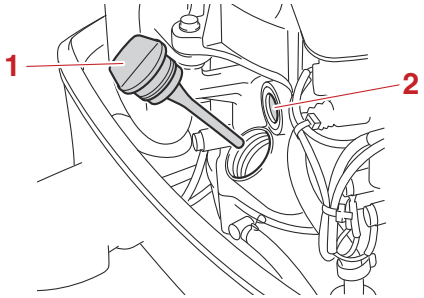
オイルがこぼれる事による環境汚染を防ぐために、エンジンオイルを交換する際は、オイルチェンジャーを使用することを強くお奨めします。オイルチェンジャーを使用できない場合は、ドレンスクリューを取り外してエンジンオイルを排出します。エンジンオイルの交換が困難な場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

(1) 船外機を垂直状態にします。 ***注意：*船外機が垂直な状態（チルトアップしていない）でなければ、オイルレベルゲージが示すオイルレベルは不正確なものになります。** [JCM01862]


ZMU06766

(2) エンジンを始動させ、エンジンを温めてからさらに 5～10 分間はアイドル状態を保たせます。
(3) エンジンを停止し、そのまま 5～10 分間放置します。
(4) トップカウルを取り外します。

(5) オイル給油キャップを外します。

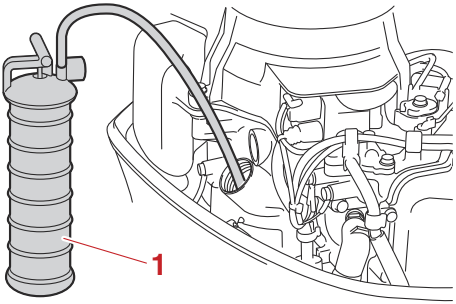


1. 給油キャップ
2. オイル潤滑確認窓

要　点

オイル潤滑確認窓では、エンジンオイル量は確認できません。オイル潤滑確認窓は、エンジン運転中に、エンジンオイルが潤滑していることを確認する時に使用します。

(6) オイルチェンジャーのチューブをオイル注入口に差込み、エンジンオイルを完全に抜き出します。

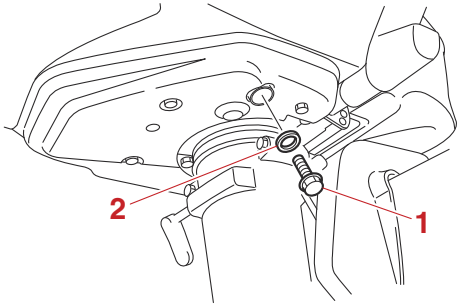


1. オイルチェンジャー

要　点

オイルチェンジャーを使用している場合は、手順 7 と手順 8 を省略してください。

(7) エンジンオイルの容量以上の廃油受皿を用意します。ドレンホールの下に容器を置き、ドレンスクリューとガスケットを外して、廃油受皿の中に完全にオイルを排出させます。こぼれたオイルはすぐに拭き取ります。



1. ドレンスクリュー
2. ガスケット

要　点

もしオイルが排出されにくい場合は、チルトの角度を変えたり、左右にステアリング操作をしたりしてオイルを排出してください。

(8) 新しいガスケットをドレンスクリューに付け、ねじ部とガスケットに少量のオイルを塗り、ドレンスクリューを取り付けます。

ドレンスクリュー締め付けトルク:
18 N·m

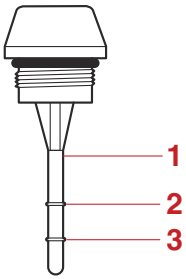
要　点

トルクレンチが準備できない場合は、ドレンスクリューのガスケットが座面に当たるまで指でねじ込み、更に 1/4～1/2 回転締め込みます。できるだけ早い時期に、トルクレンチを使用して規定トルクで締めてください。

(9) オイル注入口から規定量のエンジンオイルを入れます。 ***注意：*** **オイルは入れすぎないようにしてください。エンジンオイルを入れすぎた時は、規定量になるようにオイルを抜いてください。オイルが多すぎるとオイル漏れや故障の原因となります。** [JCM02183]

推奨エンジンオイル:
ヤマルーブ　4ストローク　マリンエンジンオイル
エンジンオイル容量:
0.6 L

(10)オイル給油キャップを完全に締め付けます。
(11)油面が安定するまで、5～10 分間待ちます。
(12)オイル給油キャップを外し、オイルレベルゲージに付着しているオイルを拭き取ります。
(13)オイル給油キャップを完全に締め付けます。
(14)再びオイル給油キャップを外し、エンジンオイルの油面がオイルレベルゲージの上限マークと下限マークの間にあることを確認します。油面が下限マークより低い場合はオイルを補充します。油面が上限マークより高い場合は、上限マークと下限マークの間にくるまでオイルを抜き取ります。



1. オイルレベルゲージ
2. 上限マーク
3. 下限マーク

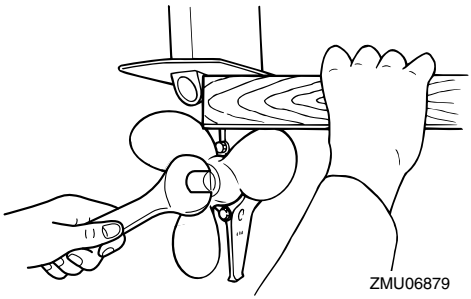
(15)エンジンを始動し、オイル漏れがないことを確認します。 ***注意：*** **オイルが漏れている場合は、エンジンを停止し原因を調べます。原因が究明できない場合は、ヤマハ取扱店で点検を受けてください。オイルが漏れている状態での使用はエンジン損傷の原因となります。** [JCM02151]
(16)トップカウルを取り付けます。
(17)廃油の処理は、法律や条例等に従って行ってください。

要　点
- 廃油の処理に関する詳しい情報はヤマハ販売店にご相談ください。
- シビアコンディションで使用した場合は、通常のメンテナンスサイクルよりも早めにオイル交換を行ってください。

JMU39773
ワイヤーリードと各接続部の点検
ワイヤーリードと各接続部について、以下の項目を点検する必要があります。点検については、ヤマハ取扱店にご相談ください。
- ワイヤーリードの接続が確実にされていることを点検してください。
- 導通用の各アース線が確実に取り付けられていることを点検してください。

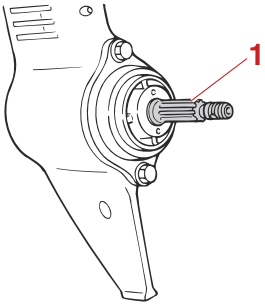
JMU39303
プロペラの点検
JWM02281
⚠警　告
プロペラの点検及び脱着を行うときは、エンジンを始動させないでください。またエンジンの始動を防止するために、シフトを中立（ニュートラル）にし、緊急エンジン停止スイッチのロックプレートを外してください。エンジンが始動すると、重大な事故につながる恐れがあります。

プロペラナットを締めたり緩めたりするときは素手でプロペラを持たないでください。プロペラとキャビテーションプレートの間に木片等をかませてから行ってください。



点検箇所

- プロペラブレードの曲がり、表面の浸食、損傷等の点検をします。
- プロペラシャフトの損傷等を点検します。
- スプラインの磨耗及び、損傷等を点検します。
- プロペラシャフトに釣り糸が巻き込まれていないか点検します。



1. プロペラシャフト

- プロペラシャフトのオイルシールが損傷していないか点検します。

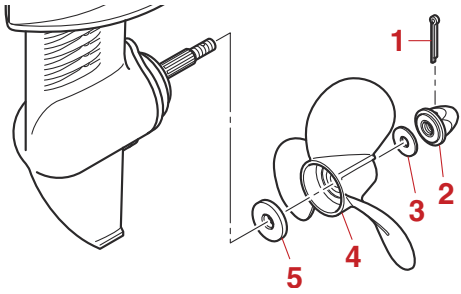
JMU30663

プロペラの取り外し

JMU39311

スプライン仕様

(1) プライヤーを使って割ピンを伸ばし、引き抜きます。
(2) プロペラナット、ワッシャーを取り外します。**警告！ プロペラナットを緩めるときは素手でプロペラを持たないでください。** [JWM01891]



1. 割ピン
2. プロペラナット
3. ワッシャー
4. プロペラ
5. スラストワッシャー

プロペラナットの２面幅：
21 mm

(3) プロペラ、スラストワッシャーを取り外します。

JMU30673

プロペラの取り付け

JMU39327

スプライン仕様

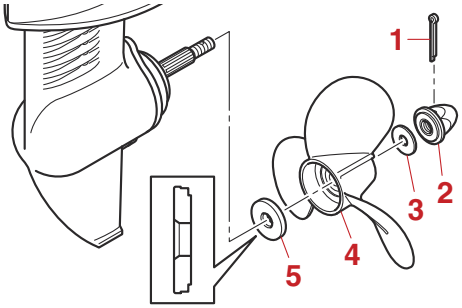
JCM00502

注 意

割ピンは新しいものを使用して端を確実に折り曲げてください。プロペラ脱落の原因となります。

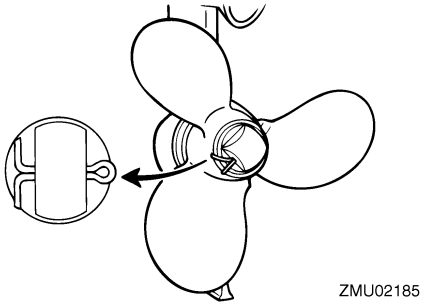
(1) プロペラシャフトにヤマハグリス D（耐食グリス）を塗布します。
(2) スラストワッシャーをプロペラシャフトに入れ、プロペラを取り付けます。
***注意：*プロペラを取り付ける前には、スラストワッシャーを必ず入れてください。プロペラとロワーケースが接触し損傷する恐れがあります。** [JCM01882]

(3) ワッシャーを取り付け、プロペラにガタがなくなるまでプロペラナットを締め付けます。



1. 割ピン
2. プロペラナット
3. ワッシャー
4. プロペラ
5. スラストワッシャー

(4) プロペラシャフト穴とプロペラナット穴の位置を合わせ、新しい割ピンを取り付けます。割ピンの端を折り曲げます。 ***注意：*** **使用済の割ピンを再利用しないでください。運転中にプロペラが脱落する恐れがあります。** [JCM01892]



要　点

プロペラナットを締め付けたときにプロペラシャフト穴とプロペラナット穴の位置が合っていない場合は、さらに締め込むか、少し緩めて穴の位置を合わせます。

JMU47081

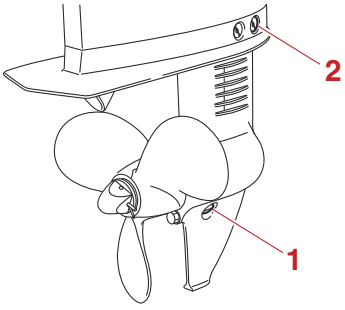
ギヤオイルの交換

JWM02351

⚠警　告

船外機はボートトランサムや専用スタンドに確実に固定してください。船外機が落下して、身体が挟まれる恐れがあり危険です。

(1) 船外機を垂直状態にします。
(2) 廃油の受け皿をロワーユニットの下に置きます。
(3) ギヤオイルドレンプラグとガスケットを外します。



1. ギヤオイルドレンプラグ
2. オイルレベルプラグ

要　点

ガスケットは新品を使用してください。取り外したガスケットは再使用しないでください。

(4) オイルレベルプラグとガスケットを外し、ギヤオイルを残らず排出させます。

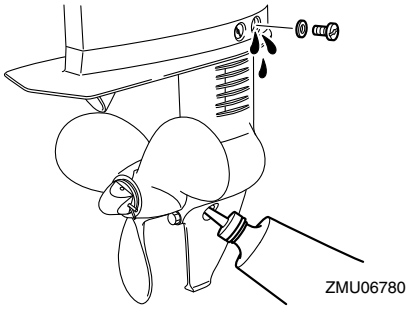
注意： **排出したギヤオイルに大量の金属粒子や水が混入している、または白濁しているときは、ギヤケースの損傷等の恐れがあります。ヤマハ取扱店へ点検、修理を依頼してください。** [JCM00714]

要　点

ギヤオイルの廃棄については、ヤマハ取扱店にお問い合わせください。

(5) ヤマハ船外機ギヤオイルをオイルドレン穴より注入します。

推奨ギヤオイル:
船外機ギヤオイル
推奨ギヤオイルグレード:
SAE 90 API GL-4
ギヤオイル容量:
0.100 L



(6) 注入したギヤオイルがオイルレベル穴から溢れ出したら、新しいガスケットを付けたオイルレベルプラグを差し込み、規定トルクで締め付けます。

要　点
取り付けの前に、オイルレベルプラグのねじ部とガスケットに少量のギヤオイルを塗ってください。

オイルレベルプラグ締め付けトルク；
7 N·m

(7) 新しいガスケットを取り付けたギヤオイルドレンプラグを差し込み、規定トルクで締め付けます。

要　点
取り付けの前に、ギヤオイルドレンプラグのねじ部とガスケットに少量のギヤオイルを塗ってください。

ギヤオイルドレンプラグ締め付けトルク；
7 N·m

JMU39333

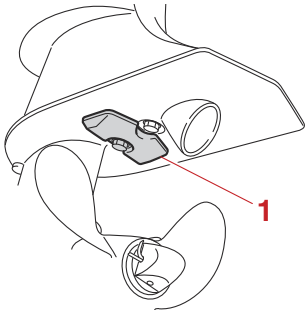
アノードの点検（外部取り付け）

アノードは、船外機を電食（水中の微弱電気による金属の腐食）から保護するためのものです。外部アノードの状態を点検し、新品の３分の１以上が消耗している場合は交換します。外部アノードの交換は、ヤマハ取扱店で行ってください。

JCM00721

注 意

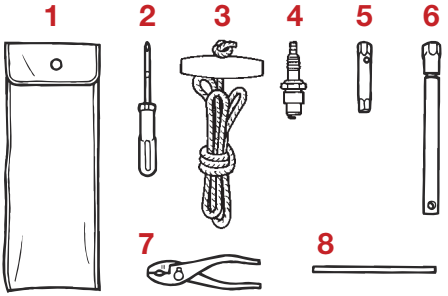
電食防止効果がなくなりますので、アノードに塗料を塗らないで下さい。



1. アノード

JMU30112

付属工具と部品



1. 工具袋
2. ドライバー (+/-)
3. 応急始動ロープ
4. スパークプラグ
5. ボックスレンチ (10-12)
6. スパークプラグレンチ
7. プライヤー
8. ハンドル

JMU39524

故障と対策

この章では、燃料、圧縮、点火系統、始動不備や出力損失などの故障に対して、想定される原因と確認項目を記載しています。いくつかの項目は、お持ちの船外機に合わない場合がございます。ご了承ください。不安な箇所がございましたら、そのままの状態でヤマハ取扱店へ作業を依頼してください。

エンジンが始動しない。

Q. 燃料タンクが空になっていませんか？
A. 燃料を入れる。

Q. 燃料が汚染されている、または古くなっていませんか？
A. 新しい、きれいな燃料へ交換。

Q. 燃料フィルターが詰まっていませんか？
A. 清掃、または交換。

Q. 燃料ポンプが故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. スパークプラグが不良になっていませんか？または、推奨以外のスパークプラグを使用していませんか？
A. 電極の清掃、または推奨スパークプラグに交換。

Q. スパークプラグキャップが外れていませんか？
A. 正しく取り付ける。

Q. 配線が接続不良、または損傷していませんか？
A. 接続の確認、または配線の交換。

Q. 電装部品が故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. エンジンシャットオフコードのロックプレートが外れていませんか？
A. 緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを差し込む。

Q. エンジン内部が損傷していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

アイドリングが不安定、またはエンストする。

Q. 燃料ホースが圧迫されていませんか？
A. 燃料ホース取り回しの点検。

Q. 燃料が汚染されている、または古くなっていませんか？
A. 新しい、きれいな燃料へ交換。

Q. 燃料フィルターが詰まっていませんか？
A. 清掃、または交換。

Q. 電装部品が故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. スパークプラグギャップが適切ですか？
A. スパークプラグの交換。

Q. 配線が接続不良、または損傷していませんか？
A. 接続の確認、または配線の交換。

Q. 推奨以外のオイルを使用していませんか？
A. 推奨オイルへ交換。

Q. サーモスタットが故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. キャブレタが調整不良になっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 燃料ポンプが故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. エアベントスクリュが締まっていませんか？
A. エアベントスクリュを緩める。

Q. チョークノブが引かれていませんか？
A. チョークノブを戻す。

Q. キャブレタが詰まっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 燃料ホースが接続不良になっていませんか？
A. 接続箇所の点検。

Q. スロットルケーブルが作動不良になっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

エンジンの力がない。
Q. プロペラが損傷していませんか？
A. プロペラの交換。

Q. プロペラサイズが適切ですか？
A. 指定回転範囲に適合するプロペラへ交換。

Q. トリム角度が適切ですか？
A. 再調整。

Q. 船外機取り付け高さが適切ですか？
A. 再調整。

Q. 船底への貝、海草類が付着していませんか？
A. 清掃。

Q. スパークプラグが不良になっていませんか？または、推奨以外のスパークプラグを使用していませんか？
A. 電極の清掃、または推奨スパークプラグに交換。

Q. 船外機への貝、海草類が付着していませんか？
A. 清掃。

Q. 燃料ホースが圧迫されていませんか？
A. 燃料ホース取り回しの点検。

Q. 燃料フィルターが詰まっていませんか？
A. 清掃、または交換。

Q. 燃料が汚染されている、または古くなっていませんか？
A. 新しい、きれいな燃料へ交換。

Q. スパークプラグギャップが適切ですか？
A. スパークプラグの交換。

Q. 配線が接続不良、または損傷していませんか？
A. 接続の確認、または配線の交換。

Q. 電装部品が故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 推奨以外の燃料を使用していませんか？
A. 推奨燃料へ交換。

Q. 推奨以外のオイルを使用していませんか？
A. 推奨オイルへ交換。

Q. サーモスタットが不良になっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. エアベントスクリュが締まっていませんか？
A. エアベントスクリュを緩める。

Q. 燃料ポンプが故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 燃料ホースが接続不良になっていませんか？
A. 接続箇所の点検。

振動が大きい。
Q. プロペラが損傷していませんか？
A. プロペラの交換。

Q. プロペラシャフトが損傷していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 海藻、貝類がプロペラへ付着していませんか？
A. 除去、清掃。

Q. ステアリングの緩み、または損傷していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

JMU29436

応急処置

JMU29442

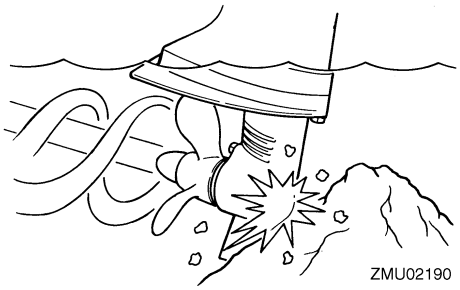
衝撃を受けた場合

JWM00871

⚠警 告

船外機は航走中に、水中の浮遊物等との衝突による重大な損傷を受けることがあります。損傷を受けた船外機は安全に航走できません。

航走中の船外機に水中の物体が当たった場合は、次の手順に従ってください。



ZMU02190

(1) エンジンを停止してください。
(2) 各部の作動を確認し、さらに各部品の損傷も点検してください。また、ボートの損傷具合も調べてください。
(3) ゆっくりと細心の注意をはらいながら、最寄りの港へ引き返してください。
(4) 再度ご使用になる前に、必ずヤマハ取扱店の点検を受けてください。

JMU39792

始動装置が作動しない場合

始動装置が作動しない場合は、応急始動用ロープでエンジンを始動することができます。

JWM02362

⚠警 告

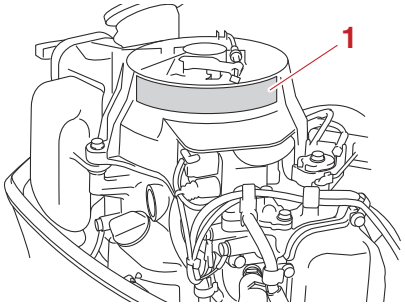
- **応急始動の操作は始動装置が作動しない場合に限って行い、エンジン始動後は最寄の港へ帰港してください。**
- **シフトを必ず中立（ニュートラル）にしてください。応急始動用ロープを使用してエンジンを始動する場合、始動安全装置は作動しません。ボートが急発進し、事故につながる恐れがあります。**
- **応急始動用ロープを引いてエンジンを始動させるときには、背後に人が居ないことを確認してください。**
- **エンジン始動の際には、衣服等を巻き込まれないようにしてください。**

- **エンジン始動後には、フライホイールや他の回転部分に触れないようにしてください。**
- **エンジン始動後には、手動始動装置やトップカウルを取り付けないでください。**
- **エンジン運転中には、イグニションコイル、高圧線、スパークプラグ等に触れないようにしてください。感電する恐れがあります。**

JMU39535

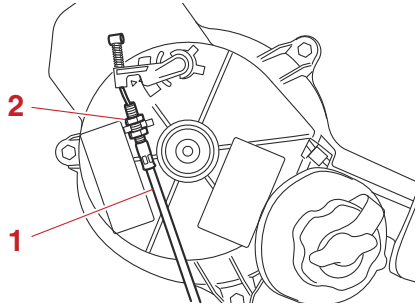
応急始動

マニュアルスターター／フライホイールカバーに付いている応急始動ラベルを確認してから、以下の作業手順に従って作業を行ってください。



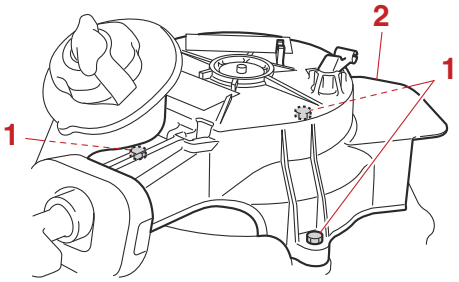
1. 応急始動ラベル

(1) トップカウルを外します。
(2) ナットを緩め、マニュアルスターターから始動安全ケーブルを取り外します。



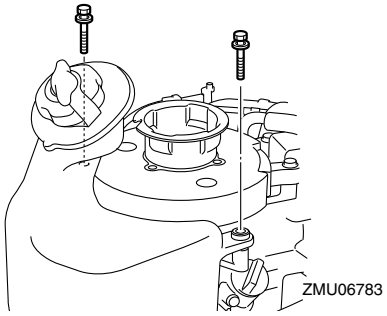
1. 始動安全ケーブル
2. ナット

(3) ボルトを外してマニュアルスターター／フライホイールカバーを取り外します。

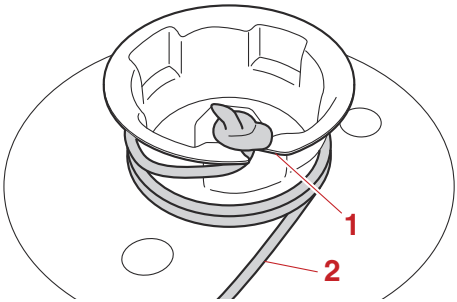


1. ボルト
2. マニュアルスターター／フライホイールマグネットカバー

(4) 外した２本のボルトを使って、燃料タンクを固定します。

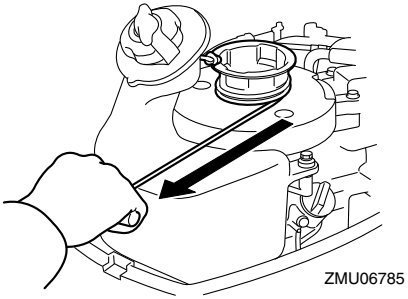


(5) 33 ページを参照して始動の準備をします。
(6) 応急始動用ロープの結び目をフライホイールの切り欠きに入れ、時計方向に数回巻き付けます。

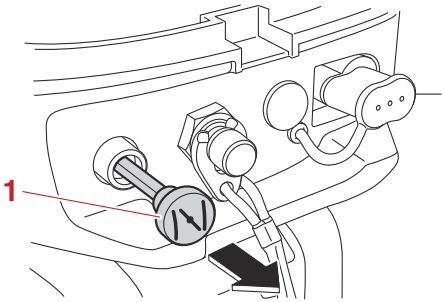


1. 切り欠き
2. 応急始動ロープ

(7) 抵抗を感じるところまでロープをゆっくりと引き、そこから一気に引っ張ります。一度で始動しない場合は、同じ操作を繰り返してください。



要　点
数回行ってもエンジンが始動しない場合はチョークノブを引きます。



1. チョークノブ

JMU33502

船外機を水中に落とした場合

船外機を水没させた場合は、直ちにヤマハ販売店までお持ちください。エンジン内各部に錆や腐食が発生する原因となります。

注意： **ヤマハ取扱店での分解整備を受けずに再使用しないでください。** [JCM00402]

JMU49120

メンテナンスに関する各種サポート情報

販売店検索や部品、メンテナンスに関する各種サポート情報は下記アドレスまたはQRコードにアクセスください。

ヤマハ　マリン　で検索。

メンテナンスガイド

- メンテナンスのポイント
- 点検方法
- サポートプログラム

https://www.yamaha-motor.co.jp/marine/life/maintenance/?utm_source=boat_manual&utm_medium=qrcode&utm_campaign=maintenance

ボートのよくある質問はこちら

- Q&A

https://www.yamaha-motor.co.jp/marine/life/maintenance/qa/?utm_source=boat_manual&utm_medium=qrcode&utm_campaign=qa

お問合せ・製品サポート

- よくある質問と回答
- 販売店検索
- 部品情報検索

https://www.yamaha-motor.co.jp/support/?utm_source=boat_manual&utm_medium=qrcode&utm_campaign=inquiry#support-marine

ボートを永く楽しんでいただくために

- ヤマハマリンライフ

https://www.yamaha-motor.co.jp/marine/life/?utm_source=boat_manual&utm_medium=qrcode&utm_campaign=marinelife

JMU30136

お客様窓口のご案内

お買い上げいただきました製品に関するご相談は、「ご購入店」またはお近くの「販売店」までお願いいたします。

お問い合わせの際、お客様へ確実に迅速に対応させていただくため、あらかじめ下記の事項をご確認の上、ご相談お申しつけください。

①商品名
②型式および製造番号
③ご購入年月日
④ご購入先

お買い上げいただいた販売店が点検・修理をはじめ、サービスのご相談などをお受けいたします。

ご購入店

エリア	営業所	TEL
北海道 東　北 関　東	ヤマハ発動機(株)　国内営業部サービスグループ横浜	045-775-2450
中　部 関　西 中　国 四　国	ヤマハ発動機(株)　国内営業部サービスグループ大阪	06-6302-2004
九　州	ヤマハ発動機(株)　国内営業部サービスグループ福岡	092-885-6523

営業時間　月曜～金曜(祝日、弊社所定の休日等を除く)　9:00～12:00　13:00～17:00

ヤマハ発動機株式会社　カスタマー コミュニケーション センター
〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500　**0120-090-819**
受付時間　月曜～金曜（祝日、弊社所定の休日等を除く）　9:00～12:00　13:00～17:00

索引

あ
- アイドル回転数の点検 57
- 浅瀬航走 43
- アノードの点検 62
- 安全にお使いいただくために 1

い
- 一酸化炭素 2
- 飲酒と薬の服用について 2

う
- 運搬と保管 45

え
- エンジンオイル 27
- エンジンオイルに関する項目 11
- エンジンオイルの交換 57
- エンジンオイルの補給 25
- エンジン始動 33
- エンジン始動後の点検 35
- エンジンシャットオフコード（ランヤード） 1,27
- エンジン操作 31
- エンジン停止 37
- エンジン停止スイッチ 36
- エンジン停止ボタン 18
- 塩水域や泥水域での航行 44

お
- 応急始動 67
- 応急処置 66

か
- 改造 2
- 回転部品 1
- カウルロックレバー 21
- 各部の名称 14
- 過積載 2
- ガソリン 1,12
- ガソリンの蒸発と流出の注意 2
- 感電の危険性 1

き
- ギヤオイル 12
- ギヤオイルの交換 61
- ギヤシフトレバー 16
- キャリングハンドル 21
- 緊急エンジン停止スイッチ 18

く
- グリス給脂箇所 55

け
- 警告ラベル 6

こ
- 高温部品 1
- 故障と対策 64
- コントロールシステムの点検 26

し
- 始動安全装置 11
- 始動装置が作動しない場合 66
- 始動前点検 26
- シビアコンディション 51
- シフト操作の点検（暖機運転後） 36
- 潤滑 50
- 衝撃を受けた場合 66
- 仕様諸元 9
- 乗船者 2
- 乗船者の訓練 4
- 衝突を回避する 3

す
- 水槽を使った洗浄 48
- 水中の障害物および浮遊物への注意 3
- ステアリングフリクションアジャスター 19
- スパークプラグの点検 56
- スロットルインジケーター 17
- スロットルコントロールグリップ 17
- スロットルフリクションアジャスター 17

せ
- 製造番号の記録 5
- 船外機外装の点検 51
- 船外機製造番号 5

船外機トリム角度 38
船外機の洗浄 50
船外機の取り付け 10,24
船外機の取り付け高さ 23
船外機の取り外しと運搬 45
船外機の廃棄に関する項目 13
船外機本体の点検 28
船外機を水中に落とした場合 68
前進／後進 36
船底の清掃 12

た
暖機運転 35
暖機運転後の点検 36

ち
長期保管 48
チョークノブ 18
チルトアップ／ダウン 40
チルトサポートバー 20
チルトピン 20
チルトロック機構 20

て
定期点検 51
定期点検表１ 52
定期点検表２ 54
停船 37
ティラーハンドル 16
天候 4

と
トップカウルの取り付け 28
トップカウルの取り外し 26

な
慣らし運転 25

ね
燃料供給 31
燃料系統 26
燃料コック 15
燃料残量 26
燃料タンク（一体型燃料タンク） 15
燃料タンク（別体型燃料タンク） 15
燃料タンクへの給油 29
燃料に関する項目 12
燃料フィルターの点検 57
燃料ホースコネクターキャップ 19
燃料漏れの点検 26

は
初めてお使いになる前に 25
バッテリーに関する項目 10

ひ
非常時の装備 13

ふ
付属工具と部品 63
プロペラ 1,10
プロペラの点検 59
プロペラの取り付け 60
プロペラの取り外し 60

ほ
法令および規制 4
ボート運転安全性 2
ボート航行の安全に関する告知 4
ボートトランサムへの取り付け 22
ボートの定格馬力 10
ボートへの設置条件 10

ま
マニュアルスターターハンドル 19
マニュアル類と製品安全ラベルを
お読みください 6

ゆ
遊泳者への注意 2

ら
ライフジャケット 2

れ
冷却水 35

索引

わ
ワイヤーリードと各接続部の点検 59

JMU30143

不許複製

名称： F5A, F6C
船外機取扱説明書
部品番号： 6ED-28199-00
発行： ヤマハ発動機株式会社
2024 年 11 月



Printed in Japan
April 2025-0.1 × 1 CR